

CZ
1113
55-0

明治十六年

長野縣布達月報
八月之部

乙		甲	
自第百二十號	至第百四十六號	自第四十八號	至第五十八號
明治十六年			
戊		己	
自第百三號	至第百六號	自第九十五號	至第百九十二號
丙		丁	
自第百三十七號	至第百四十八號	自第百四十八號	至第百四十八號

長野縣布達月報

長野縣布達月報

明治十六年

長野縣布達月報

八月之部

1113
55-09

長野縣布達月報第八月之部

甲第四十八號 明治十六年七月二日

明治十四年本縣乙第五十四号達後備軍司令部條例中別冊之通改正追加候旨陸軍省ヨリ
達相成候條此旨布達候事

後備軍司令部條例改正

第一條 而シテ以下二十六字ヲ削ル

第二條 「使府縣駐在官及ヒ」ヲ「府縣駐在官郡區駐在官司令部書記及ヒ府縣駐在」ト

第三條 「後備軍副官以下」ヲ「部下」トス

第四條 「常ニ其職掌ヲ補助」又司令部會計ノ事務ヲ掌ル」ヲ「司令部一般ノ庶務ニ任ス司令部」トス

第五條 府縣駐在官ハ後備軍司令官ニ隸シ常ニ府縣ニ駐劄シ其府縣内徴兵調査及ヒ豫備軍後備軍ノ事務ヲ擔任ス府縣駐在書記ハ府縣駐在官ニ屬シ記駐書寫ノ事ヲ掌ル郡區駐在官ハ府縣駐在官ニ隸シ常ニ郡區ニ駐劄シ其管轄郡区内徴兵調査及ヒ豫備軍後備軍ノ事務ヲ擔任ス

第八條 「節」ノ下ニ「後備軍副官」ヲシテ「ノ八字ヲ加ヘ」取扱フ「ヲ」取扱ハシム」ト

同條但書 但分營ノ地ニ在テハ府縣駐在官ヲシテ參列セシメ其事務ヲ取扱ハシムヘ

第九條但書 「後備軍副官」ヲ「府縣駐在官」トス

第十三條 「郡區長」ノ「下」ニ「戶長」ノ與書「トシ」使「ヲ」郡區駐在官ヘ届出シメ同官

同條但書 「本人所管ノ後備軍使府縣駐在官」ヲシテ附與セシム「ヲ」府縣駐在官

第十四條 二行目「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トス

同 條 四行目ヨリ「後備軍使府縣」ヲ更ニ之ヲ本人ヘ送達セシム「ヲ

第十五條 「府縣駐在官」及ヒ郡區駐在官ヲ經テ之ヲ本人ヘ附與ス「トス

同條但書 「寄留」ノ下ニ「或」ハ寄留地ニ於テ徵集コ應シ原籍地ヘ歸郷」ノ二十字ヲ

加フ

第十八條 「軍律徒以上或ハ常律懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決」ヲ「重罪」

第十九條 「郡長」ノ與書證印ノ上使「ヲ」戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官及ヒ」ト

同條但書 「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トス

第二十條 「第十八條ノ常律懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決」ヲ「地方裁

第二十一條 豫備兵及ヒ後備兵服役中平時ニ在テ旅行或ハ某地ヘ單身寄留セント欲

スル者一軍管內ニ在テハ召集ニ支ヘサル爲メ其往先ヲ詳カニ戶長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ヘ届出シメ同官ハ之ヲ府縣駐在官ヘ届出ヘシ又他軍管ニ係ルルハ戶長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出シムヘシ尤府縣駐在官ハ非常召集又ハ復習點呼等ニ妨害ナキヤ否ヲ審察シ其願書ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ後備軍司令官ヘ差出シ且軍管内外ヲ問ハス旅行或ハ寄留中召集ノ命アルハ直ニ之ヲ通報スヘキ親族ノ者ヲ定メ置キ其姓名住所ヲ記シ願書或ハ届書ト共ニ差出サシムヘシ

但外國へ旅行又ハ滞在セント欲シ本文ノ手續ヲ以テ願出ルキハ後備軍司令官ヨリ之ヲ鎮臺司令官ニ具狀シ許可ヲ請フヘシ尤其旅行滞在中ハ復習及ヒ點呼ヲ免ス

第二十二條 豫備兵及ヒ後備兵服役中一軍管内へ轉籍或ハ全戸寄留セント欲スル者ハ左ノ第一書式ノ如ク郡區駐在官へ届出シメ同官ヨリ之ヲ府縣駐在官へ届出テ又他軍管へ轉籍或ハ全戸寄留セント欲スル者ハ左ノ第二書式ノ如ク郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官へ願出シムヘシ

但轉籍或ハ寄留地着後三日以内ニ左ノ第一書式ノ例ニ準シ新住地ノ郡區駐在官へ届出シメ同官ヨリ之ヲ府縣駐在官へ届出ヘシ

第一書式

私儀此度何府〔縣〕何郡〔區〕何町〔村〕何番地へ轉籍〔全戸寄留〕致候間此段御届申候也

府〔縣〕郡〔區〕町〔村〕番地
明治何年徵兵兵種番號 名 印
豫備軍〔後備軍〕何等卒 姓 名 印

前書之通相違無之候也

府〔縣〕郡〔區〕町〔村〕戸長 姓 名 印

第二書式

私儀此度第何軍管々下何府〔縣〕何郡〔區〕何町〔村〕何番地へ轉籍〔全戸寄留〕仕候間兵籍御送り相成度此段奉願候也

府〔縣〕郡〔區〕町〔村〕番地
明治何年徵兵兵種番號 名 印
豫備軍〔後備軍〕何等卒 姓 名 印

年月日
第何師管後備軍司令官官姓名殿
前書之通相違無之候也

府〔縣〕郡〔區〕町〔村〕戸長 姓 名 印

府〔縣〕郡〔區〕駐在官官姓名印
府〔縣〕駐在官官姓 名 印

第二十四條

「郡區長戸長證印ノ上後備軍使府縣」ヲ「戸長ノ証印ヲ以テ郡區」トシ

同條但書

但離婚若シハ其婦ノ死去スルキハ戸長ノ與書證印ヲ以テ速ニ郡區駐在官へ届出シメ同官ヨリ府縣駐在官へ届出ヘシ府縣駐在官ハ之ヲ後備軍司令官へ報告シ司令官ヨリ鎮臺へ報告スヘシ

第二十五條但書

但點呼ハ其官廳所在地方ノ召集ニ應セシムルモ妨ケナシ

第二十六條 「郡區長戸長與書証印ノ上」ヲ「戸長ノ與書証印ヲ以テ」トシ「後備軍使」

第二十八條 「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トス

第二十九條 一行目ヨリ「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トシ「師管」ヲ「府縣駐在官」ニ差

出シ同官ヨリ之ヲ「イ」ス

同 條 四行目ヨリ「後備軍使府縣駐在官」ニテ更ニ之ヲ本人ニ送達セシム

五行目ニ至ル「後備軍使府縣駐在官」ヲ經テ之ヲ本人ニ附與ス」トス

第三十二條 「使府縣駐在官管内ノ」ヲ「郡區駐在官其管轄」トス

第三十三條 「後備軍使府縣駐在官」ヲ「府縣駐在官」ニ達シ同官ヨリ郡區駐在官」トス

第三十四條 同條書式中 「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トス

第三十七條 「後備軍使府縣駐在官」ニ届出テ同官ヨリ之ヲ後備軍司令官ニ報告ス」ヲ

同條但書 「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トス

第三十九條第四十條中 「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トス

第四十一條 「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トス

同條第二項
第四十三條

「應シ難キ者」ヲ「應スル」トシ得ル者トス
「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トシ「使府縣」ヲ「郡區」ニ取替メ府縣駐在官
ハ差出シ同官ハ之ヲ「府縣」トス

第四十四條

「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トシ「兵」ノ下ニ「之」ヲ府縣駐在官へ申告シ
同官ハ「ノ」十四字ヲ加フ

同條但書

「使府縣」ヲ「各地」トス

第四十七條書式中

「歩」〔騎〕〔砲〕〔工〕〔輜重〕兵〔會計〕〔軍醫〕〔馬醫〕〔軍樂〕〔輜重卒〕
之部「ノ」二十一文字ヲ削ル

第四十九條

「及ヒ會計軍醫馬醫軍樂各部」ノ十二文字ヲ削ル

同條書式中

「歩」〔騎〕〔砲〕〔工〕〔輜重〕兵〔會計〕〔軍醫〕〔馬醫〕〔軍樂〕之部「ノ」十七字ヲ
削ル

第五十二條第一書式中

「常備歸休歩」〔騎〕〔砲〕〔工〕〔輜重〕兵之部「ノ」十三字ヲ削ル

同條第二書式中

「除隊歸休歩」〔騎〕〔砲〕〔工〕〔輜重〕兵之部「ノ」十三字ヲ削ル

第十二條第三十一條第三十三條但書第四十七條書式第四十九條書式第五十二條書式中

ニ散見スル所ノ「使府縣」ノ「使」ヲ削ル

後備軍司令部職員等級表及ヒ各軍管後備軍司令部職員配置表別紙ノ通改ム

駐在所位置並管轄區畫表別紙ノ通追加

後備軍司

軍管
師管
大
佐
中

第一			第二		第三		第四		第五		第六	
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三
司令官			司令官				司令官			司令官		司令官

軍司令部職員等級表

佐中 佐少 佐 大尉 中尉 少尉 曹長 軍曹 伍長

分官	副官	府〔縣〕駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	府〔縣〕駐在書記
----	----	---------	-------	---------	----------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	府〔縣〕駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	府〔縣〕駐在書記
----	----	---------	-------	---------	----------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	府〔縣〕駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	府〔縣〕駐在書記
----	----	---------	-------	---------	----------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

分官	副官	縣駐在官	司令部書記	郡〔區〕駐在官	縣駐在書記
----	----	------	-------	---------	-------

考 備	第 三						第 二						第 一						第								
	第 七			第 六			第 五			第 四			第 三			第 二			第 一			第					
	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 四	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 四	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 五			
一 第一第四第六第八第十第十一第十三師管ノ後備軍司令官副官及ヒ司令部書記ハ鎮臺所在ノ地ニ第二 一 函館縣駐在官ハ第五師管後備軍司令官ノ管轄ニ屬ス故ニ之ヲ第五師管ノ區畫ニ載ス	石 川	富 山	福 井	信濃ノ内 七郡	遠江ノ内 全圖	愛知	岐 阜	函 館	山 形	秋 田	青 森	岩 手	陸前ノ内 四郡	福 嶋	宮 城	長 野	新 潟	群 馬	枋 木	下野ノ内 四郡	茨 城	千 葉	山 梨	靜 岡	埼 玉	神 奈 川	
	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官三	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二
	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官三	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二
	第 六			第 三			第 五			第 一			第 四			第 九			第 八			第					
	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 四	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 四	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 三	司 令 官 一	副 官 一	書 記 五	副 官 一	書 記 一	
	佐	長	福	大分ノ内 豐前二	大	宮	鹿 兒	熊	德	愛	高	山	廣	島	岡 山ノ内 備中全	岡	隱岐ノ内 全	鳥	丹波ノ内 丹波一	京都ノ内 丹波一	播磨ノ内 全	三	若狹ノ内 全	滋	京	兵	和 歌

軍司令部部職員配置表

府		縣		職		員		軍管		師管		職		員																
東京	神奈川	埼玉	靜岡	山梨	千葉	茨城	栃木	下野	群馬	新潟	長野	宮城	福島	岩手	青森	秋田	山形	函館	岐阜	愛知	靜岡	遠江	長野	信濃	石川	富山	福井	三		
駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	
司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	
副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	
書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	
大坂	和歌山	兵庫	京都	滋賀	福井	若狹	三重	兵庫	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	
駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	
副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	
書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	
大坂	和歌山	兵庫	京都	滋賀	鹿兒島	宮崎	大分	豐前	福岡	長崎	佐賀	熊本	鹿兒島	宮崎	大分	豐前	福岡	長崎	佐賀	熊本	鹿兒島	宮崎	大分	豐前	福岡	長崎	佐賀	熊本		
駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	
司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	
副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	
書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	

第六第八第十一第十二部官及七司令官部書記八鎮臺所在ノ地ニ第二第三第五第七第九第十一

三			一				三				四				三				一				五						
福	富	石	信濃	長野ノ内	遠江	静岡ノ内	愛知	岐草	函館	山形	秋田	青森	岩手	陸前	岩手ノ内	福嶋	宮城	長野	新潟	群馬	栃木	下野	栃木ノ内	茨城	千葉	山梨	静岡	埼玉	神奈川
郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官三	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官三	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官三	郡區駐在官二	
六						五						四						第											
第十			第十			第十			第十			第十			第九			第八											
司令官一			司令官一			司令官一			司令官一			司令官一			司令官一			司令官一											
副官一			副官一			副官一			副官一			副官一			副官一			副官一											
書記三			書記四			書記三			書記四			書記三			書記一			書記五											
佐賀	長崎	福岡	大分	宮崎	鹿兒島	熊本	徳島	愛媛	高知	山口	廣島	島根	岡山ノ内	岡山	鳥取	丹波	京都ノ内	丹波	鳥取	島根ノ内	岡山	三重	若狹	福井ノ内	滋賀	京都	兵庫	和歌山	
郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官三	郡區駐在官一	郡區駐在官二	郡區駐在官三	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官三	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官二	郡區駐在官一	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	

六第八第十一第十三師管ノ後備軍司令官副官及ヒ司令部書記ハ鎮臺所在ノ地ニ第二第三第五第七第九第十十二ノ後備軍司令官副官及ヒ司令部書記ハ營所所在ノ地ニ府縣駐在官及ヒ府縣駐在書記並ニ郡區駐在官ハ各其駐在所官ハ第五師管後備軍司令官ノ管轄ニ屬ス故ニ之ヲ第五師管ノ區畫ニ載ス

第			一				
水 戸	千 葉		甲 府		靜 岡		熊 谷
	水 更 津	東 金 千 葉	龍 王	甲 府	吉 原	靜 岡	
水 戸			山 梨		靜 岡		武 藏
常 陸	上 總	下 總	甲 斐	甲 斐	駿 河	駿 河	
鹿 島	望 陀 天 羽 周 准 夷 隅	山 邊 長 柄 上 植 生 武 射	中 巨 摩 南 巨 摩 北 巨 摩 西 八 代	齊 山 梨 東 山 梨 南 都 留 北 都 留 東 八 代	駿 河 富 士 駿 東 伊 豆 君 澤 田 方 賀 茂 那 賀	大 里 北 崎 玉 藤 澤 男 衾 兒 玉	

第										軍 管 師 管	駐 在 所 位 置 並 管 轄 區 畫 表							
第																		
浦 和 川		橫 濱		東 京						府 縣 駐 在 所 區 區 駐 在 所 府 縣 國 名								
浦 和	浦 和	戶 塚	橫 濱	淺 草 區	芝 區	麴 町 區	東 京 府				府							
埼 玉		神 奈 川		武 藏						郡								
埼 玉		神 奈 川		相 摸	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏		區 名							
武 藏	武 藏	相 摸	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏									
入 間	高 麗	比 企	橫 見	秩 父	下 久 井	鎌 倉	三 浦	高 座	大 住	陶 綾	足 柄	上 足 柄	深 川	麴 町	神 田	日 本 橋	京 橋	本 所

三

第 大 阪	福井		富山		金澤		飯 田
	武生	福井	高岡	富山	七尾	金澤	
	福井縣		富山縣		石川縣		
大 阪 府	越前	越前	越中	越中	能登	加賀	信濃
	南條今立丹生敦賀	足羽吉田大野坂井	礪波福井	上新川下新川婦負	羽咋珠州鹿島鳳至	金澤區石川河北能美江沼	上伊那下伊那諏訪
河内	和泉	河内	攝津	河内	和泉	河内	河内
志紀	石川	大島	東區西區南區北區東成西成住吉	交野	大島	大島	大島
大縣	古市	安宿部錦部八上丹南丹北	豐島能勢	磯良	泉南	日根	日根

第

第 八		第 八		第 八		第 八		三 津
大津		神戶		京都		和歌山		
八	大	伊	神	龜	京	田	和	
檀	津	丹	戶	岡	都	邊	歌	山
滋賀縣		兵庫縣		京都府		和歌山縣		
近江	近江	攝津	攝津	山城	山城	紀伊	紀伊	大和
西淺井伊香	蒲生神崎愛知大上阪田東淺井	河邊有馬	神戶區菟原武庫八部	丹波何鹿南桑由北桑田船井	上京區下京區愛宕葛野宇治紀伊	東牟婁西牟婁日高	和歌山區那賀伊都有田海部名草	添上添下平群山邊式上式下廣瀬

第 十					第 五		
鹿兒島	大分		熊本		德島	宇和嶋	
	臼杵	大分	八代	山鹿 熊本			脇町 德島
薩摩 鹿兒島 大隅 熊毛 奴謨 大島	豐後 北海部 南海部 大野 直入	豐後 大分 日田 玖珠 速見 東國東 西國東	肥後 八代 天草 蘆北 球摩	肥後 隈府 玉石 山本 菊地 合志 阿蘇	肥後 熊本區 飽田 託摩 宇土 上益城 下益城	阿波 美馬 阿波 麻植 三好	伊豫 上浮穴 下浮穴 伊豫 喜多 東宇和 西宇和 北宇和 南宇和

第 十		第 一		第 十				
松山	高知		玉嶋		松江			
	松山	丸龜	高梁	玉嶋		覆田 松江		
愛媛縣	高知縣		岡山縣		鳴根縣			
伊豫 溫泉 早氣 久米	讚岐 那珂 香川 小豆 大內 寒川 三木	土佐 幡多 高岡	土佐 土佐 安藝 香美 長岡 吾川	備中 上房 賀陽 阿賀 哲多 川上	備中 都宇 窪屋 下道 湊口 小田 後月	石見 那賀 邇摩 安濃 邑智 美濃 鹿足	出雲 島根 意宇 秋鹿 能義 大原 仁多 飯石	長門 赤馬關區 大津 豐浦 美禰 厚狹

六		第			三		鹿兒島	
長崎	福岡	宮崎	延岡	宮崎	日向	日向	日向	日向
大村	久留米	小倉	日向	日向	日向	日向	日向	日向
長崎縣	福岡縣	宮崎縣	日向縣	日向縣	日向縣	日向縣	日向縣	日向縣
肥前 東彼杵 南松浦 北松浦	筑後 上妻 下妻 山本	筑前 遠賀 上座 下座 夜須	日向 宮崎 那珂 兒湯 北諸縣	日向 宮崎 那珂 兒湯 北諸縣	日向 宮崎 那珂 兒湯 北諸縣	日向 宮崎 那珂 兒湯 北諸縣	日向 宮崎 那珂 兒湯 北諸縣	日向 宮崎 那珂 兒湯 北諸縣

四		仲	
津	仲	津	大分縣
佐賀	佐賀	佐賀	佐賀
伊万里	佐賀	肥前	肥前
佐賀縣	佐賀縣	東松浦	西松浦
佐賀	佐賀	杵島	藤津
津	大分縣	下毛	宇佐

甲第四十九號 明治十六年七月十四日

醫業取締規則別紙之通相定候條此旨布達候事
但此規則ニ抵觸スル從前之布達及達ハ消滅候義ト心得ヘシ

【別紙】

醫業取締規則

第一條 醫師ト稱スルハ内務省及本縣ノ免狀ヲ所持スル者ヲ云フ

第二條 醫師ハ無免狀ノ者ヲシテ代診セシムルヲ許サス

第三條 患者ヲ診療スルニハ處方録ヲ調製シ住所氏名身分職業年齢既婚未婚ノ別及病名藥法等ヲ明記シ置臨時掛リ官吏ノ點檢ニ供スヘシ

第四條 醫師ハ藥局ヲ設ケ自ラ患者ニ投劑スルヲ得ヘシト雖モ診察ヲ遂ケサル患

ニ藥劑ヲ與フルヲ許サス

第五條 患者ノ囑托ニ應シ處方箋ヲ與フルキハ其書面ニ患者ノ住所氏名年齢藥劑ノ分量用法等ノ別年月日自己ノ住所氏名ヲ記シ之ニ捺印スヘシ

第六條 改氏名ノ節ハ免狀書換ヲ出願シ若シ免狀毀損又ハ紛失等有之節ハ其事由ヲ詳記シ更ニ請求スヘシ

第七條 內務省開業免狀ヲ所持スルモノハ開業廢業又ハ轉居轉籍共其都度届出ツヘシ

但廢業若シハ死亡ノ節ハ免狀ヲ返納スヘシ

第八條 本縣開業免狀ヲ所持スルモノ管內轉籍ノ節ハ免狀書換ヲ出願スヘシ

但轉居ノ節ハ其都度届出ツヘシ

第九條 本縣開業免狀ヲ所持スルモノ、管外へ轉籍若シハ寄留シ又ハ廢業死亡スルキハ免狀ヲ返納スヘシ

但管外へ移轉シ仍ホ營業ヲ營マント欲スル者ハ其管轄廳へノ添翰ヲ出願スヘシ

第十條 出張所ヲ設クル者ハ其郡町村番地及名稱出診ノ定日等ヲ期シ届出ツヘシ

第十一條 出張所ニ代診者ヲ置クキハ其住所氏名ヲ記シ免狀寫相添届出ツヘシ

第十二條 此規則ニ掲グル願届等ノ手續ヲナスモノハ總テ所轄郡役所ヲ經由スヘシ

第十三條 本則第二條第四條第五條ニ違背スル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニ據テ處分ス

甲第五十號 明治十六年七月十四日

地方病患者届手續別紙之通相定候條來ル八月一日ヨリ右ニ照準可届出此旨布達候事
但明治十四年〔二月〕本縣乙第二十三號布達ハ同日ヨリ廢止ノ義ト心得ヘシ

〔別紙〕

地方病患者届出手續

第一條 地方病ノ調査ハ專ラ風土氣候習俗等ニ徴シ其病原ヲ探知シ將來豫防改良ノ方法ヲ設クルノ目的ナルヲ以テ煩ヲ厭ハス勉テ調査ノ緻密ナルヲ要ス

第二條 地方病ハ漸次各種ノ調査ヲナスヘシト雖モ目下脚氣間歇熱ノ二病トス

第三條 前二病ニ罹リ醫師ノ診療ヲ受ケタル者ハ其治癒死亡及ヒ未癒廢業共速ニ其醫師ニ通知スヘシ

但醫師ノ診療ヲ受ケサル者モ其發病及治癒死亡ハ直ナニ之ヲ衛生委員ニ届出ツベシ

第四條 醫師該二病ヲ診療シ又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルキハ第一號書式ニ倣ヒ届書ニ通テ作リ速ニ患者所在地ノ衛生委員ニ送致スヘシ

第五條 衛生委員前條届書ノ送致ヲ得タルキハ之ニ其町村人員等ヲ記入シ戸長ト俱ニ連署押印シ速ニ所轄郡役所ニ差出スヘシ

第六條 衛生委員ニ於テ第三條但書ノ届ヲ受ケタルキハ其發病及ヒ治癒等ヲ親シ患者ニ質シ第二號書式ニ倣ヒ届書ニ通テ作リ速ニ所轄郡役所ニ差出スヘシ

第七條 郡役所ニ於テ前二條ノ届書ヲ受ケタルキハ一通ハ該廳ニ留置キ一通ハ速ニ縣廳ニ進達スヘシ

第一號

脚氣(間歇熱)患者届

國郡町村番地

(他ヨリ轉籍寄留ノ者ハ其原住地ノ地名及ヒ移住以來ノ年月日ヲ記スヘシ)

身分職業

既婚(未婚)者

氏 名

年 齡

一本町人口幾人(此項ハ衛生委員ニ於テ之ヲ記入ス)

一發病月日時

一初感或ハ(再三感)

一診斷月日時

一治癒(死亡)(未癒廢業)

何月何日何地ニ於テ發病

何月何日本町(轉居)村

(此項ハ發病ノ後轉居セタル者アルキ醫師ニ於テ記)

右及御届候也
入ス)

郡町村番地

主任醫

氏 名

名 印

衛生委員

氏 名

名 印

戸長

氏 名

名 印

縣 令 宛

第二號

脚氣(間歇熱)患者届

國郡町村番地

(他ヨリ轉籍寄留ノモノハ其原住地及ヒ移住以來ノ年月日ヲ記スヘシ)

身分職業

既婚(未婚)者

氏 名

年 齡

一本町人口幾人

一發病月日時

一初感或ハ(再三感)

一治癒(死亡)

何月何日何地ニ於テ發病
何月何日本町ニ轉居ス
〔此項ハ發病ノ後轉居シタル者アルキ之ヲ記入ス
右及御届候也〕

右及御届候也

年月日

衛生委員

氏名印

戸長

氏名印

縣令宛

届書式解釋

- 一 間歇熱患者届ハ番地ノ下移住以來ノ年月及初感云々ノ項ヲ記スルニ及ハス
- 一 職業ノ別別ハ官吏醫師僧侶農商工舟乘礦夫諸力役罪囚ノ十種トシ他ノ業務ハ諸業ト記ス
- 一 職業中商工力役諸業ノ四種ハ之ヲ細別米商大工諸業何力役ニテ單ニ從事スル所ノ現業ヲ記ス
- 一 治癒死亡未癒廢藥ノ届書ニハ發病月日ノミヲ列記ス

一人口ハ發病届ノミニ限リ其町村現在ノ數ヲ記ス

甲第五十一號 明治十六年七月十四日

近來水車營業ノ者早搗粉ト稱スル粉末ヲ玄米ニ混合シ搗精スル者有之趣ニ候處右ハ自然人身ノ健康ニ害アルノミナラス其糖ヲ牛馬ノ食用ニ供スルキハ傷害アルモノニ付自今右ノ粉末ヲ混合シ米穀ヲ搗精候義不相成候條此旨布達候事

甲第五十二號 明治十六年七月十四日

明治十四年二月本縣乙第十一號布達但書ニ(從來)トアルヲ(現在)ト改正シ同十五年三月第三十四號布達但書中未滿ノ下(ノ地)ノ二字ヲ削リ(聚落ノ市街)ノ五字ヲ加ヘ同市街掃除規則第十六條中(馬車宿)ヲ(牛馬宿)ト改正ス
右布達候事

甲第五十三號 明治十六年七月十七日

陸軍々醫講習生假規則別冊之通相定候條此旨布達候事

(別冊)

陸軍々醫講習生假規則

第一條 軍醫講習生ハ陸軍々醫官ニ出身志願ノ者ヲ撰拔シ東京陸軍病院ニ於テ之ニ要用ナル學術ヲ教授シ卒業ノ上ハ三等軍醫若シハ軍醫試補ニ任シ其職務ヲ奉セシム

ルモノナリ

- 第二條 講習生ハ看護長看病卒若クハ華士族平民中醫術開業免狀ヲ所持スル者ニテテ検査定格ニ合スル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 講習生ハ入學ノ日ヨリ陸軍一定ノ規則ヲ遵奉セシム故ニ入學後ハ決シテ他志ナク陸軍ニ従事スルノ誓約ヲナサシム
- 第四條 講習生修學ノ期限ハ五ヶ月トス然レモ疾病其他ノ事故ニ由リ豫定ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ尙ホ若干月ヲ延期スルコトアル可ク
- 第五條 講習生修學中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退學スルコトヲ許サス然レモ病氣若クハ正狀不正或ハ怠惰ニシテ卒業ノ目途ナキモノハ退學セシム可シ但看護長看病卒ヨリ入學セシ者ハ軍醫部下士若クハ卒トナシ定期ノ年限ノ前役及生徒修學中ヲ服役セシム
- 第六條 講習生ハ官費生ト自費生トノ二トス其官費生ハ修學ノ費用及ヒ居宅衣食ノ料トシテ若干ノ手當金ヲ給シ其自費生ハ一切ノ費用總テ自辨タル可ク但修學上ノ器械物品ハ官給トス
- 第七條 講習生ハ私宿ニ在テ日々東京陸軍病院ニ通學シ軍醫ノ學術其他ノ事ヲ研究セシム但時宜ニ因リ軍醫ノ手術ヲ補助セシムルコトアル可ク
- 第八條 講習生ハ學期ノ終ニ於テ試験ヲ行ヒ及第スル者ハ之ヲ優等及ヒ通常ノ二種ニ區別シ各卒業證書ヲ授與ス

- 第九條 講習生ハ試験ヲ受ルノ後優等卒業証ヲ得タル者ハ二等軍醫ニ通常卒業証ヲ得タル者ハ軍醫試補ニ任スルコト例トス但優等卒業証ヲ得ル者ト雖モ修學中屢懲罰ノ所斷ヲ受ケシ者等ハ軍醫試補ニ任スルコトアル可ク
- 第十條 講習生ノ召募ハ陸軍卿之ヲ陸軍部内及ヒ府縣ニ達シ其検査ハ検査格例ニ準據シ軍醫本部ニ於テ之ヲ爲スヲ例トス故ニ軍醫本部長ハ所要ノ人員並ニ召募ノ時期等ヲ豫メ陸軍卿ニ上申スヘシ但時宜ニ依リ在東京ノ者ノミヲ召募セシムルコトアル可ク
- 第十一條 講習生召募ノ達アレハ陸軍部内ニ在テハ近衛鎮臺又ハ各官廨ニ於テ其志願者ヲ取調ヘ左式ノ書面ニ本人ノ名簿寫並ニ醫術開業免狀寫下士ニ在テハ添へ軍醫本部ニ送附シ各府縣ニ在テハ之ヲ管下ニ達シ志願者ヲシテ第十二條ノ手續ヲ爲サシム可シ軍醫講習生入學志願人名

隊號(所管)

何等看護長 姓

名

年號月日生

何等看病卒 姓

名

全

年號月何年何ヶ月

右軍醫講習生入學志願ニ付名簿寫並ニ醫術開業免狀寫及ヒ考科表相添差出候間御檢査ノ上入學御差許有之度候也

全

〔所管長官〕

年號月日

職官姓名印

〔軍醫本部長〕

職官姓名殿

第十二條

華士族平民ヨリ軍醫講習生志願ノ者ハ左式ノ願書ニ履歷書及ヒ醫術開業免狀寫ヲ添ヘ本籍若クハ寄留地府縣ノ與書証印ヲ受ケ直ニ軍醫本部ニ差出ス可

願書式用紙美濃白紙以下

願書式履歷書之ニ同シ

軍醫講習生入學願

某儀

陸軍出身志願ニ付此度軍醫講習生入學〔自費入學〕奉願候間御檢査ノ上御採用被下度別紙履歷書並ニ醫術開業免狀寫相添此段奉願候也

府〔縣〕何族〔平民〕

戶主名何男〔兄〕〔弟〕〔伯〕〔叔〕〔甥〕〔附籍〕

何國何郡〔區〕何町〔村〕何産
何國何郡〔區〕何町〔村〕何番地住〔寄留〕

姓名印

年號月日

年號月日生
年號月何年何ヶ月

〔軍醫本部長〕

職官姓名殿

前書之通調査候處相違無之候也

府〔縣〕何郡〔區〕何町〔村〕戶長
ル地ハ區長

姓名印

前書之通相違無之候也

府〔縣〕知事〔令〕姓名印

履歷書式書式ニ示ス外履歷ニ係ル者
アルキハ悉ク記載スヘシ

履歷書

身元引受人

府〔縣〕何族〔平民〕

東京府下何郡〔區〕何町〔村〕何番地住〔寄留〕

姓名印

全

全

全

府〔縣〕何族〔平民〕職業

戶主名何男〔兄〕〔弟〕〔伯〕〔叔〕〔甥〕〔附籍〕

姓名

年號月日生
年號月何年何ヶ月

一祖父母

何某存亡

一父母〔養父母〕

全 全

此他兄弟姊妹等在籍者ハ皆之ニ準テ記載ス可シ

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學校〔何塾〕ニ入り教師某ニ就テ何學修業

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學研究ノ爲メ何國〔外國〕ニ在留

一何年月日何學校〔何塾〕ニ於テ何學卒業何年月日右証ヲ受ク

一何年月日何年月日内務省第何號醫術開業狀ヲ受ク

一何年月日任何官〔補何等出仕〕〔免本官〕〔出仕被免〕〔何省〔府〕〕〔縣〕等

一何年月日何職被申付〔月給〕〔何職被免〕〔何省〔府〕〕〔縣〕等

一何年月日何ニ依テ賞典何々下賜ル

一何年月日何ノ科ニ依リ何爵被申付

齊之通相違無之候也

本人 姓名 印

右身元引受人

姓名 印

全

年號月日

府〔縣〕何郡〔區〕何町〔村〕戶長 戶長アテ
地ハ區長

姓名 印

第十三條 看護長看病卒及ヒ華士族平民共檢査ノ上定格左ノ如ク

第一則 年齡三十歳以下ノ者

第二則 体格

第三則 學科

第十四條 華士族平民ヨリスル者檢査合格ノ上入學ヲ命ヌル者ハ父兄親族其他一家

ヲ成ス身元儲ナル者三名 東京居住ノ身元引受人ト爲メ官費ノ者ハ左式第一號自費

ノ者ハ第二號ノ入學證書ヲ差出サシム

第一號証書式 用紙証券界紙第二號証書之ニ同シ

軍醫講習生入學證書

某 儀

陸軍出身志願ニ付此度軍醫講習生官費入學御許可相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守
誓テ陸軍ニ従事可仕萬一學術不勉強又ハ品行不正等ニテ退學ヲ命セラレ候節ハ入學
中ノ費用一切辨償可仕若シ本人上納難致節ハ引受人ヨリ相納可申且本人身上之儀ハ
何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受人連署證書如此候也

府〔縣〕何族〔平民〕

戶主名何男〔兄〕〔弟〕〔伯〕〔叔〕〔甥〕〔附籍〕

何國何郡〔區〕何町〔村〕何番地住〔寄留〕

姓 名 印

何國何郡〔區〕何町〔村〕何番地住〔寄留〕

年號月日生

年號月何年何ヶ月

身元引受人

府〔縣〕何族〔平民〕

東京府下何郡〔區〕何町〔村〕何番地住〔寄留〕

姓 名 印

全 全

年號月日

〔軍醫本部長〕

職 官 姓 名 殿

前書之通調査候處相違罪之候也

府〔縣〕何郡〔區〕何町〔村〕戶長戶長アラサ
ル地ハ區長

姓 名 印

前書之通相違無之候也

府〔縣〕知事〔令〕

姓 名 印

第二號證書式

軍醫講習生入學證書

某 儀

陸軍出身志願ニ付此度軍醫講習生自費入學御許可相成候付テハ御規則嚴重ニ相守誓
テ陸軍ニ従事可仕且入學中ノ費用ハ御規則之通上納可致若シ本人上納難致節ハ引受
人ヨリ相納可申其他本人身上之儀ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受人連署證書如此候也

府〔縣〕何族〔平民〕

戶主名何男〔兄〕〔弟〕〔伯〕〔叔〕〔甥〕〔附籍〕

何國何郡〔區〕何町〔村〕何番地住〔寄留〕

姓 名 印

身元引受人

年號月日生
年號月何年何ヶ月

府〔縣〕何族〔平民〕
東京府下何郡〔區〕何町〔村〕何番地住〔寄留〕

姓名印

全全

全

年號月日

〔軍醫本部長〕

職官姓名殿

前書之通調査候處相違無之候也

府〔縣〕何郡〔區〕何町〔村〕戸長
戸長アヲサ
ル地ハ區長

姓名印

前書之通相違無之候也

府〔縣〕知事〔令〕 姓名 印

第十五條 講習生ハ學ノ時第三條ノ趣旨ニ基キ左ノ如ク誓文牒ニ署名捺印シ其志操ノ確實ヲ証セシム

誓文牒

陸軍出身志願ニ付今般軍醫習生入學奉願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ従事可仕且入學中ハ家事故障ハ勿論假令ヒ病氣ト雖モ自ラ免除ノ請願致シ候等ノ儀ハ仕間敷候欲テ誓文如件

年號月日

姓名印
全全

甲第五十四號 明治十六年七月三十一日

當縣備荒儲蓄規則及ヒ十六年度備荒儲蓄金収支豫算縣會ノ決議ヲ取り内務大藏兩卿ノ認可ヲ受ケ別紙之通相定候條此旨布達候事

〔別紙〕

長野縣備荒儲蓄規則

第壹章

儲蓄方法ノ事

第壹條

備荒儲蓄ハ明治十三年第三十一號公布ニ依リ之レテ施行ス

第二條

公優金額及ヒ徵收定率ハ縣會ニ於テ之レテ議定ス

第三條

儲蓄金ノ半額ハ公債證書ヲ購入シ他ノ半額ハ縣會ノ議定ニヨリ之レヲ處分ス
但シ公債證書ノ記名ハ縣令ノ名義ヲ以テス

第四條

公儲金ノ収集ハ七月一月ノ兩期トシ每期其半額ヲ收集スヘシ

第五條

米穀ハ長野松本上田飯田上諏訪小諸ノ六所ニ蓄積ス

第六條

米穀ハ非常ノ天災事變ニヨリ臨時ノ救恤ヲ爲サ、ル可ラザル場合ニアラサレハ之レヲ散セス

第七條

儲蓄金増殖ノ爲メ支出ノ都合ヲ量リ幾分ヲ管内國立銀行へ定期預ケトナシ利子ヲ生セシムヘシ

第八條

蓄積ノ期ハ二年目麥ハ六年目ニ於テ積換チナスヘシ
但シ年ノ景況ニヨリ伸縮スルコトヲ得

第二章

地租救済ノ事

第九條

地租ノ補助及ヒ貸與ハ左ノ場合ニアラサレハ之レヲナサス

一 水旱風塵ノ災ニ罹リ一戸田方平均五分以上ノ損毛アルハ
一 畑方ハ飢饉ト公認スルハ

第十條

貸與金ハ前條損毛ノ歩分(損毛五分ナレハ)ニ準シ皆無損毛ニ至リ其地租全額ヲ貸與ス

但シ同年度ニ於テ已ニ補助シタル者ハ貸與セス

第十一條

貸與金返納ハ其翌年ヨリ貸與歩合(租額五分貸與ハ五分年)ニ準シ無利足年賦トシ十ヶ年ヲ限ル
但シ年賦返納毎年五月トシ第二號書式ニ倣ヒ証書ヲ出サシムヘシ

第十二條

貸與金返納年期中再度凶災ニ罹リシ者モ第九條以下ノ例ニヨル
但シ本文ノ場合ニ於テハ第一ノ貸與金年賦皆済ノ翌年ヨリ更ニ第二ノ貸與金ヲ年賦返納セシムル者トス

第十三條

貸與金返納年期中該地ノ全部若シハ其幾分ヲ賣買讓與スルハ其買受人讓受人ハ年賦金ヲ引受ケ年期中從ヒ年賦証書ヲ書換ヘシ

第十四條

貸與金返納年期中天災ニ罹リ荒地トナリタルハ年賦金ヲ免除スヘシ

第十五條

補助金ハ一時給與スル者ニシテ其金額ハ貸與金ニ對スル三分ノ一トス
但シ同年度ニ於テ已ニ貸與シタル者ハ補助セズ

第十六條

前條貸與又ハ補助ヲ出願スル者アルキハ戶長ニ於テ損害ノ景況及ヒ歩合ヲ詳查シ第一號書式ニ倣ヒ郡役所ヲ經テ縣廳ニ申請スヘシ

第十七條

縣廳ニ於テハ前條ノ申請ヲ審査シ事宜ニヨリ官吏ヲ派遣シ又ハ郡吏ヲシテ實地ヲ點檢セシメ確實ナリト認ムルキハ之レヲ補助シ又ハ貸與スヘシ

第二章

罹災窮民救助ノ事

第十八條

連村市同時暴災ニ罹ルガ如キ窮困最モ甚シキ者ハ三十日以内臨時焚出シ米ヲ給與シ其災害ノ景況ニ依リテハ假リニ小屋ヲ營ミ一時ノ急ヲ救フヘシ

第十九條

水火風震ノ災害或ハ劇烈ナル流行病ニ罹リ目下飢餓ニ迫ル者男一人一日玄米三合
但七
以上十二歳以下ハ女一人一日玄米二合ノ積ヲ以テ三十日以内ノ食料ヲ救助スヘシ
ノ割合ヲ以テ給ス

但シ玄米代ハ其地ノ下米相場ヲ以テス

第二十條

水火風震ノ災害ニ罹リ家屋蕩燼シ自力ニ及ハサル者ハ其輕重ヲ量リ小屋掛料トシテ一戸金拾圓以内ヲ給與ス
但シ借家或ハ同居ノ者ハ給與セズ

第二十一條

前條ノ罹災者ニシテ農具及種敷ヲ自辨スル能ハサル者ハ農具料一戸金拾五圓以内種敷料一戸金五圓以内ヲ給與スヘシ

第二十二條

第十八條以下ノ罹災者救助ヲ乞フキハ戶長ニ於テ其災害ノ輕重或ハ身元ノ景況ニヨリ第三號書式ニ準シ郡長ニ具申スヘシ郡長ハ篤ト事實ヲ調査シ救濟セサル可シサル者ト認ムルキハ豫備金ヲ以テ速ニ給與スルヲ得ルト雖モ其第十九條以下ノ給與ハ所有地價金卅圓未滿ノ者ニ限ルヘシ

但シ本文制限外ノ者ト雖モ實際不得止ト認ムルキハ戶長ニ於テ詳密具狀シ郡長ハ實地ヲ調査シ縣廳ニ具申スヘシ縣廳ニ於テハ其事情ニヨリ特ニ詮議スルコトアルヘシ

地租金補助願
第一號

反別收穫米ハ改正確定ノ分ヲ記載ス

何郡何村

何番 何等

一田反別何町何反何畝何步

此收穫米何程

地租金何程 五分毛

內見

地租五分額

拜借金何圓

何番 何等

一田反別何畝步

此收穫米何程

地租金何程

內見 三分毛

地租七分額

拜借金何圓

何 某

何 某

何番 何等

一田反別何反步

此收穫米何程

地租金何程

內見 皆無

地租全額

拜借金何圓

何番 何等

一田反別何町何畝步

此收穫米何程

地租金何程

內見 四分毛

地租五分額

拜借金何程

何 某

何 某

右寄

何町何反何畝何步

此收穫米何程

地租金何程

内

金何程

各自ヨリ公租收納相立候分

差引

地租金何程

内

金何程

金何程

金何程

五分損毛拜借願何人

七分損毛拜借願何人

皆無拜借願何人

右ハ何々ノ災ニ罹リ田方非常ノ損毛ニテ定租上納難致ニ付御成規ノ補助金御許可相成度立會人連署此段奉願候也

金何程

六分損毛拜借願何人

願人

同

立會

伍長

何

何

何

何

何

何

其所他村ニアル其地ノ戸長モ加フ

長野縣令 何某殿

前書之通相違無之候也

年月日

某郡長

何

某

第二號

地租金借用年賦證書

反別何程

一金

但損害歩合何程明治何年ヨリ何年迄無利足何ヶ年賦一ヶ年何程宛毎年五月限り上納可仕候

右者本年何月何日何ノ災害ニ罹リ非常ノ損失ニテ定租上納難致ニ付年賦借用金奉願候處御聞届被下書面ノ金員正ニ受取申候然ル上ハ御規則ノ通上納可仕候俵之拜借証書差上候處仍如件

明治年月日

長野縣令 何某 殿

前書之通相違無之候也

何村

何 某

何村

何 某

戸長

何 某

地所他村ニアル其地ノ戸長ヲ加フ

第三號

何災御救助願

一 家族何人内 男何人 女何人

但七十歳以上何人 十二歳以下何人

何郡何村平民

何 某

一 家族何人内 男何人 女何人

同郡同村士族

何 某

計何人 男何人 女何人

但七十歳以上十二歳以下何人

右者何々ニ付何日間御救助相成度候

何郡何村平民

何 某

一 家族何人内 男何人 女何人

一、、、、、、、、、、、

計何人内

但、、、、、、、、、、、

右ハ、、、、、、、、、、、

總計何人 男何人 女何人

但、、、、、、、、、

右ハ何月何日何々ノ災ニ罹リ難澁至極ニ付書面ノ日數御救助被成下度此段奉願候也

明治年月日

罹災人

何 某

伍長

戶長

長野縣令 何某殿

小屋掛料 農具料 御給與願

一 小屋掛料 農具料 金何圓 金何圓

何郡何村

何 某

何郡何村

家族何人

一 小屋掛料 農具料 金何圓 金何圓

但何反轉

何 某 家族何人

一 小屋掛料 農具料 金何圓 金何圓

但何反轉

何 某

計

右者何月何日何災ニ罹リ家産蕩盡難澁極ニ付書面ノ通り何々料御下與被成下度此段奉願候也

明治年月日

罹災人

何 某

伍長

戶長

内

長野縣令何某殿

明治十六年度備荒儲蓄收支豫算

收入之部

一金五万六千二十圓五錢五厘

内譯

金一万二百六十圓三十四錢五厘

金二万二千九十三圓九十六錢

但地價金三千八百七十一万六千二百九十圓六十一錢三厘地價百圓ニ付金五錢五厘

金二万千六百六十七圓

内

金一万五百八十四圓

金一万五百八十三圓

金三千二百九十八圓七十五錢

額面四万七千二百九十圓ノ内四万六千三百三十五圓ハ七朱千五百五十五圓ハ六朱

支出之部

前々年度越金

公儲金

配付金

十六年七月下付之分

十七年一月下付之分

公債証書利子

一金五万六千二十圓五錢五厘

内譯

金六千三百四十三圓三十錢三厘

内

金三百一圓五十六錢三厘

十四年度實費ニ據ル

金千九圓

十四年度實費ニ據ル

金九百四圓八十錢

十四年度實費ニ據ル

金百二十七圓九十四錢

十四年度實費ニ據ル

金三千圓

十五年度豫算ニ據ル

金千圓

十五年度豫算ニ據ル

金六千圓

罹災救助金

食料

小屋掛料

農具料

種穀料

地租補助金

地租貸與金

米穀買上代

金三千圓	粉買上之分
金二千圓	麥買上之分
金三万五千九百七十一圓一錢二厘	公債証書買入代
金千三百圓八十七錢	儲穀積換損米代
三ヶ年ヲ經タル粉千三百四石八斗七升正損米二割ト見積粉二百六十石九斗七升	
四合金十圓ニ付二石替	
金二百六十圓	儲倉修繕費
儲倉十三棟一棟平均二十圓	藏敷料
金四百圓	藏番給
儲倉十ヶ所一ヶ所平均四十圓	運送費
金二百十二圓	雜出
十二人一人年額二十四圓	豫備費
金二百五十五圓七十七錢	
十四年度實費ニ據ル	
金百七十三圓十錢	
十四年度實費ニ據ル	
金五千圓	
諸費不足ノ補填ニ備フ	

甲第五十五號 明治十六年八月八日
 戶山學校体操卒監の卒概則別冊之通被相定候條此旨布達候事
 (別冊)
 戶山學校体操卒監の卒概則

第一條 体操卒ハ体操術ノ訓練ニ服テ兼テ体操場ノ監守及ヒ体操器械ノ保存手入等ヲ掌リ監の卒ハ監のノ事ニ服シ兼テ射的ノ用材料ノ取扱並ニ保存及ヒ銃器ノ手入等ヲ掌ル但本務ノ外勤務ノ繁閑ニ因リ互ニ補助セシムルコトアル可ク

第二條 体操卒及ヒ監の卒ハ缺員アル毎ニ華士族平民中志願ノ者ニシテ其檢査定格ニ合スル者ヲ採リ之ニ充テ各本務ノ技術並ニ步兵科生兵學ヲ修業セシメ卒業ノ後二等体操卒若クハ二等監の卒ヲ命ス

第三條 其服役期限ハ二等卒ヲ命シクル日ヨリ常備役七ヶ年トス然レモ再服役ヲ請願スル者ハ詮議ノ上更ニ三ヶ年ノ役ニ服スルヲ許ス

第四條 常備豫備及ヒ後備役ノ兵卒ハ上等卒ニシテ体操卒又ハ監の卒ヲラシメテ志願スル者ハ詮議ノ上之ヲ許シ七ヶ年間常備役ニ服セシム而シテ本務技術卒業ノ後ハ其等級ニ應ジテ体操卒若クハ監の卒ヲ命スルモノトス

第五條 体操卒及ヒ監の卒中學術ニ長シ且才能アル者ハ拔擢シテ下士ニ任ス但其服役ノ方法及ヒ年期等ハ陸軍下士服役規則ニ從フ

第六條 体操卒及ヒ監の卒ハ常ニ校内ニ在ルヘキモノト雖モ時宜ニ因リ校外ニ私宿

セヨムルヲアルヘシ

第七條 體操卒及ヒ監的卒ノ被服食料日給其他給與品ハ総テ鎮臺歩兵卒ニ異ナルナシ

第八條 修業中ハ勿論服役期限中ハ如何ナル事故アルモ免役ヲ請願修業中ニ在テハ

スルコトヲ許サズ然レモ卒業ノ目途ナキ者又ハ病患ニテ服役ニ堪ヘ難キ者ハ檢査ノ

上ニテ免除ス但常備豫備及ヒ後備役ヨリ志願ノ者ニシテ若シ卒業ノ目途ナキ者ハ舊

兵科ニ服シ所管鎮臺ヘ引渡シ鎮臺ニ於テハ前役修業中ノ日ヲ通算シ常備豫備若シハ

後備軍ニ編入シ定期ノ服役ヲ帶ハシム

第九條 華士族平民中ヨリ採用スヘキ者檢査ノ項目左ノ如シ

- 第一則 年 齡 體操卒自十八年至二十四年
監的卒自十八年至二十七年
- 第二則 身 長 體操卒五尺以上
監的卒四尺八寸以上
- 第三則 體 質 強壯ノ者
- 第四則 讀 書
- 第五則 作 文
- 第六則 算 術
- 第十條 檢査合格ノ者ハ先ツ一週間通學セシメ實試ノ上採用ス

第十一條 體操卒若シハ監的卒志願ノ者ハ身元引受人二名東京居住ノヲ立テ左式ノ

願書ニ本籍若シハ寄留地府縣ノ與舊證印ヲ受ケ直ニ戸山學校ニ差出ス可シ

願書式用紙美濃白紙

體操卒(監的卒)御採用願

某 儀

此度御校體操卒(監的卒)志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度尤入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且本人身上之義ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可仕依テ引受人連署ノ上此段奉願候也

何府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

何國何郡何所產

姓 名 印

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

年號月日生

生年號月何年何ヶ月

身元引受人

府(縣)何族(平民)

東京府下何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓 名 印

年號月日

陸軍戸山學校校長官姓名殿

全 全

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

府(縣)何郡(區)何町(村)戸長

前書之通相違無之候也

府(縣)知事(令) 姓名 印

第十二條 華士族平民中志願ノ者検査合格ノ上ハ軍人トナルヘキヲ以テ入校ノ時左

ノ如ク誓文牒ニ署名捺印シ其志操ノ確實ヲ證セシム

誓文牒

今般陸軍戸山學校体操卒監の卒志願御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ従事可仕且服役年間ハ家事故障ハ勿論假令病氣ト雖モ自ラ免役ヲ請願致シ候等ノ儀ハ仕間敷候依テ誓文如件

年號月日

全 全 姓名 印

甲第五十六號 明治十六年八月廿一日

今般陸軍教導團各兵科生徒七百名 内步兵科四百名騎兵科二十名砲兵科百名 召募候旨陸軍卿ヨリ達相成候條入學志願ノ者ハ來月十月十日マテニ願書ニ通縣廳可差出仍テ別冊

教導團各兵科生徒入學検査各例及志願者心得相添此旨布達候事

(別冊)

明治十六年陸軍教導團各兵科生徒入學検査格例

第一條 検査ヲ分テ四則トス

第一則 年齢

第二則 身体

第三則 讀書作文

第四則 算學

第二條 第一則各兵科生徒ハ滿十八年以上廿五年以下喇叭生徒ハ滿十六年以上廿三年以下タルベシ

但年齢ヲ算スルニハ來ル明治十七年一月ヲ以テ期トス

第三條 第二則ノ検査ハ砲兵科身長五尺二寸以上歩騎工輜重兵科並喇叭ハ同五尺以上

體質強壯ニシテ喇叭生徒ハ齒列齋密ノ者

第四條 第三則ノ検査ハ其科目ヲ分テ二トス

其一 讀書 日本歴史地誌ノ類

其二 作文 通俗往復文

第五條 第四則ノ檢査ハ左ノ如ク

數學加減乘除

陸軍教導團各兵科生徒入學志願者心得

第一條 今般召募スル處ノ教導團生徒ハ陸軍教導團條例第一章第四條ニ據リ陸軍部内及ヒ府縣ノ華士族平民中歩騎砲工兵科並諸兵喇叭生徒入學志願ノ者ハ妻子ナキ者ニ限ル檢査ノ上之ヲ採用ス

第二條 此生徒ハ志願兵ト爲シ入學ノ日ヨリ常備兵籍ニ編入シ陸軍一定ノ規則ヲ奉セシムルヲ以テ其入學ノ日決シテ他志ナク陸軍ニ從事スルノ誓約ヲサシム故ニ入學ノ後ハ自己ノ情願ヲ以テ退學スルヲ許サズ然レハ病患ニテ兵役ニ堪ヘ難キモノハ軍醫ノ診斷ニ依テ之ヲ處分ス又學術不勉強品行不正等ニテ成業ノ目的ナキ者其陸軍部内ヨリスル者ハ舊所管ニ復シ華士族平民ヨリスル者ハ退學セシメテ鎮臺諸隊ニ送附シ定期ノ服役年限ヲ帶ハシム

第三條 此生徒ハ下士ニ要用ナル高等ノ學術ヲ教授スルヲ以テ修業期限歩騎兵科ハ十六ヶ月砲工兵科ハ二十ヶ月トス而シテ修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サズ

第四條 生徒修業中ハ被服食料諸器械等一切官給トシ且若干ノ手當金ヲ給ス

第五條 生徒卒業ノ上ハ下士ニ任ス而シテ其服役期限ハ修業ノ時日ヲ除キ任官ノ日ヨリ滿十年常備七年トス而シテ常備滿期ノ後尙ホ現役ヲ希望スル者ハ詮議ノ上之ヲ

許スコトアリ

第六條 陸軍部内ノ志願者ハ各其所管ニ出願シ華士族平民中ヨリ志願ノ者ハ第一號

第二號第三號書式ニ照準シ願書履歷書戶籍明細書等正副二通宛本籍又ハ寄留地ノ府縣廳ニ差出スヘシ

第七條 在東京陸軍部内并華士族平民中ヨリ入學志願者ノ檢査ハ教導團ニ於テ之ヲ爲シ其他ハ鎮臺營所或ハ縣下ニ檢査官ヲ派出シテ之ヲ爲ス然レハ志願者ノ多寡ニ依リ甲地志願者ヲ乙地ニ集メ檢査スルコトアルヘシ

第八條 陸軍部内甲地志願者ヲ乙地ニ集メ檢査スルキハ往復旅費並ニ日當ハ給與概則第十一章第十八條ニ依リ旅費日當金三十錢滞在日當金二十八錢ヲ支給ス而シテ華士族平民中ヨリ志願ノ者檢査場往復旅費並滞留日當ハ檢査合格ニ合格ニ不拘其里程ニ應シ左ノ金額ヲ檢査官ヨリ直ニ本人ニ支給ス故ニ出頭片道ノ旅費ハ一時自辨シ居住地ノ郡區長或ハ戶長ノ里程證書ヲ持參シ之ヲ受クヘシ

往復旅費 一日十里諸金三十錢

但十里以上ノ端里數一里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス近方片道六里以上十一里未滿ハ日當金三十錢三里以上六里未滿ハ其半額三里未滿ハ給セズ若シ一泊スルキハ三里以上ハ日當全額ヲ給シ三里未滿ハ旅籠料金二十錢ヲ給ス

滞留日當 一日金二十八錢

第九條 檢査場開設ノ地並ニ檢査時日等ハ派出檢査官ヨリ直ニ鎮臺營所等及ヒ縣廳

或ハ郡〔區〕役所へ通達スヘシ

第十條 華士族平民中ヨリ志願ノ者ハ必ス検査時日ニ先テ指示スル地ノ郡〔區〕役所ニ出頭止宿等詳細届ケ出ツヘシ郡〔區〕役所ニ於テハ右書類取纏メ置キ検査官到着ノ節差出スヘシ

第十一條 検査時日ニ際シ志願者中病氣又ハ事故等ニ依リ當日出場ヲ欲クモノアルモ之カ爲メ時日ヲ遷延シ更ニ検査場ヲ開クコトナシ

但華士族平民中ヨリスル者ハ病氣又ハ事故ニヨリ當日缺席ノ者ト雖ヒ次ノ検査場ニ至リ更ニ検査ヲ乞フ者ハ之ヲ許可ス

第十二條 志願者検査合格ノ上採用スルルハ陸軍部内ニ在テハ教導團ヨリ所管鐵臺或ハ營所等へ通報シ華士族平民ニ在テハ縣廳ヲ經テ本人ニ達上京セシムヘシ然ルハ陸軍部内志願者ハ定規ノ宿泊證書ヲ持参シ之ヲ教導團へ差出スヘシ

但入學ヲ命スルコト當リ再ヒ身体ノ検査ヲ爲シ自己ノ不攝生ヨリ病症ニ罹ルモノト認ムルルハ入學ヲ許サハルノミナラズ華士族平民ニ在テハ歸郷ノ旅費ハ勿論上京ノ旅費ヲモ給セサルモノトス

第十三條 上京ヲ命セシ者陸軍部内ニ在テハ給與概則第十一章第二十一條ニ依リ旅費日當金四十錢ヲ支給シ華士族平民ニ在テハ其里程ニ應シ左ノ旅費ヲ教導團ヨリ本人管轄應ニ送致シ出京後ノ滞留日當ハ直ニ本人ニ支給ス
出京旅費 二日十里諸金四十錢

但書前條ニ同シ

滞留日當 前條ニ同シ

第一號書式

教導團入學願 用紙美濃白紙

某 儀

陸軍出身志願ニテ此度教導團生徒入學仕度候間御検査ノ上御採用被下度入學ノ上ハ固ヨリ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ従事可仕萬一行狀不正又ハ卒業ノ目的無之ヨリ退學ヲ命セラレ候共決シテ違背不仕御定則ノ服役年限ヲ相終リ可申且又本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラヌ身元引受人ニ於テ引受可仕依テ履歷書相添引受人連署此段奉願候也

何府〔縣〕何族〔平民〕職業

戶主名何男〔兄〕〔弟〕〔伯〕〔叔〕〔甥〕〔附籍〕

何兵科

何兵科喇叭

志願

姓名

印

身元引受人

何府〔縣〕何族〔平民〕

何府〔縣〕何國何郡〔區〕何町〔村〕何番地住〔寄留〕

姓名 印

明治十七年一月何年何ヶ月

年號月日

陸軍教導團長官姓名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

何府〔縣〕何郡〔區〕何町〔村〕戸長〔戸長ナキ地ハ區長〕

姓 名 印

前書之通相違無之候也

何府〔縣〕知事〔令〕

姓 名 印

第二號書式

履歷書

用紙願書ニ同シ而シテ書式ニテ外履歷ニ係ルモノアルキハ悉ク記載スヘシ

何府〔縣〕何族〔平民〕職業

戸主名何男〔兄〕〔弟〕〔伯〕〔甥〕〔附籍〕

姓 名

何年何月種痘〔天然痘〕

年號月日生

明治十七年一月何年何ヶ月

一何年月日任何官〔補何等出仕〕〔免本官〕〔出仕被免〕何省〔府〕〔縣〕〔何廳〕

- 一何年月日何職被申付〔何職被免〕何省〔府〕〔縣〕〔何廳〕
- 一何年月日ヨリ何年月日迄何學校〔塾〕入學何科卒業〔何學修業〕
- 一何年月日ヨリ何年月日迄何學研究〔商業〕ノ爲メ何處留學〔滯留〕
- 一何年月日何々ノ依テ賞典何々下賜ル
- 一何年月日何々ノ科ニ依リテ何罰申付ラル

右之通相違無之候也

年號月日

本人

姓 名 印

右身元引受人

姓 名 印

第三號書式

戶籍明細書 用紙願書ニ同シ

祖父 某名 何年月日生〔亡〕

現在ナレハ生何年月日死亡ナレハ亡年月日

祖母 何ノ誰何女 某名 全上

實父 何ノ誰何女 某名 全上

養父 某名 全上

實母 何ノ誰何女 某名 全上

養母 何ノ誰何女 某名 全上

兄 [義兄] 某名 全上 以下本籍ニアル者ヲ記載スヘシ

弟 [義弟] 某名 全上

姉 [義姉] 某名 全上

妹 [義妹] 某名 全上

氏神 何神社

宗門 何宗何寺

右之通ニ候也

年號月日

本人 姓名印
右身元引受人 姓名印

甲第五十七號 明治十六年八月廿二日

地所建物又ハ船舶ヲ賃入若クハ書入トシ他府縣下町村戸長ノ公證ヲ受ケタル者ハ其都度直ニ可届出日彙ニ公證ヲ受ケ當今期限内ノモノハ本年十月十五日限り可届出若ク右等ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ事故ノ何タルヲ問ハス該役場備付公證割印簿更正ヲ要スル事アルモ更ニ關係ナキモノトシ別段告示不及候條此旨布達候事

但其關係ノ脱シタル節モ本文明様届出ベシ

甲第五十八號 明治十六年八月廿七日

藥舖並藥種商營業規則別冊之通相定來ル十七年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十四年八月本縣乙第百二十號布達ハ同日ヨリ廢止ノ義ト心得ベシ

(別冊)

藥舖並藥種商營業規則

第一章 藥舖

第一條 藥舖ト稱スルハ藥品ノ調劑ヲ業トスル者ヲ云フ

第二條 調劑ハ必ス醫師ノ處方箋ニ據リ自己ノ意見ヲ以テスルヲ許サス

第三條 處方箋中藥名不分明ナルカ又ハ其藥量不適當ナリト認ムルトキハ必ス之ヲ

處方主ニ質シテ後調劑スヘシ

第四條 前條ノ手續ヲ履ミ調劑シタルトキハ其容器ニハ藥劑ノ用量用法患者氏名及

年月日藥舖主ノ住所氏名ヲ明記シ押印シタル標紙ヲ貼付スヘシ

但紙包ノ如キハ直チニ書記スルモ妨ナシ

第五條 處方箋中患者ノ住所氏名年齢及處方主ノ住所氏名並ニ何月日押印ナキモノ

ハ調劑スヘカラス

第六條 處方箋ハ順次集綴毎月括トナシテ必ス之ヲ保存シ臨時官吏ノ點檢ニ供スヘ

第七條

貯藏ノ藥品ハ其用器ニ藥名ヲ明記シ〔和漢字ニテ〕書記スヘシ〔置クヘシ毒藥劇藥ハ別ニ貯藏シ他ノ藥品ト錯雜セシムヘカラス〕

第八條

新クニ藥舖開業セント欲スル者ハ第九條ニ記載セル試驗ヲ遂ケ其成績ヲ內務卿ニ具狀シ免狀ヲ交付スヘシ

但官立學校ニ於テ製藥學ノ卒業證書ヲ得タル者其證書及履歷書ヲ以テ願出ルキハ審査ノ上試驗ヲ要セス内務卿ニ具狀シ免狀ヲ下付スヘシ

第九條

開業試驗科目及試驗願手續左ノ如シ
但試驗ヲ乞フモノハ滿十七年以上ノ者ニ限ルヘシ

第一 試驗科目

算術 物理學大意 化學大意 藥物學大意 處方學大意

第二 試驗ハ縣立醫學校ニ於テ本校教員或ハ藥局長ノ内ヲ以テ臨時試驗委員ヲ命ジ衛生課員一名臨席施行スヘキモノトス

第三 試驗問題ハ一科ニ付二題トシ其應答ノ時間ハ一題ニ時間ト定メ筆記シテ試驗委員ニ出スヘシ

第四 受験人ハ書籍ヲ携帶シテ試驗場ニ入ルヲ許サス又一題ノ答記ヲ終ラサル間ハ立會吏員ノ許可ヲ得スシテ試驗場ヲ出ルヲ許サス

第五 試驗期ハ毎年二月五月八月十一月ノ四度トス志願ノ者ハ其前月十五日迄

ニ左ノ書式ニ據リ正副二通郡役所ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ

書式 藥舖營業試驗願

某 儀

今般藥舖營業仕度候間御試驗之上免狀御下附相成度履歷書相添此段奉願候也

國郡町村番地住〔寄留者ナレハ本籍ヲモ記スヘシ〕

身分

願人 何 某 印

年 齡

衛生委員

何 某 印

戶 長

何 某 印

縣 令 宛

第十條 藥舖主改氏名ノ節ハ免狀書換ヲ請願シ他管内ヘ轉籍ノ節ハ其旨本縣ヘ届出

ツヘシ

但他管下ヘ寄留或ハ管内轉居又ハ休業スル者ハ其旨届出ツヘシ

第十一條 水火盜難等ノ事故ニ依リ免狀ヲ毀損シ又ハ遺失スルキハ其事由ヲ詳記シ更ニ免狀ヲ請願スヘシ

第十二條 本縣ノ藥舖免狀又ハ鑑札ヲ所持スルモノ管內轉籍スルキハ免狀若クハ鑑札書換ヲ請願スヘシ

第十三條 本縣ノ藥舖免狀又ハ鑑札ヲ所持スルモノ他管下へ轉籍寄留スルキハ免狀若クハ鑑札ヲ返納スヘシ

第十四條 死没或ハ廢業スルキハ速ニ免狀若クハ鑑札ヲ返納スヘシ

第十五條 藥舖主ノ相續火其營業ヲ繼續セント欲スルキモ亦本則第九條ニ從フヘシ若シ幼年又ハ事故アリテ試驗ヲ受クル能ハサル者ハ相當ノ後見人ヲ定メ更ニ營業ヲ出願スルヲ得

第十六條 內務省ノ免狀ヲ受ケス從來藥舖ヲ營業セシモノ他管內ヨリ轉籍寄留シ仍ホ其營業ヲ爲サント欲スルキハ本則第九條ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第十七條 本縣ノ藥舖免狀及鑑札付與シアル者ハ明治二十三年ヲ期トシ本則學科ノ試驗ヲ遂ケ及第ノモノハ更ニ免狀ヲ下付シ落第スルカ或ハ試驗ヲ受クル能ハサル者ハ鑑札ヲ返納スヘシ

但本條期限內鑑札返納或ハ書換等ハ本則第十條ヨリ第十四條迄ニ據ルヘシ

第十八條 藥舖ハ左ノ離形ニ倣ヒ看板ヲ調製シ之ヲ舖頭ニ掲クヘシ但本縣ノ藥舖免狀及ヒ鑑札ヲ所持スルモノハ長野縣免狀ト記スヘシ

內務省免狀	姓名
藥舖	名

曲尺 三尺五寸

第十九條 藥舖ニシテ藥種商ヲ兼業セント欲スル者ハ更ニ本則第二章ノ手續ニ從フヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商ト稱スルハ單味ノ諸藥品ヲ賣買スルヲ業トスル者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ醫師ノ處方箋アルモ調劑スルヲ許サス

第二十二條 藥種商ハ明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則第一第二第三類ノ藥品ハ容器ノ儘販賣スルヲ得ルト雖モ封緘ヲ開キテ小賣又ハ小買スルヲ許サス

但本條ノ藥品ハ別ニ貯藏所ヲ設ケ他ノ藥品ト錯雜セシムヘカラス

第二十三條 藥種商ハ豫テ藥品買入帳簿ヲ製シ置キ其賣入ニ係ル藥種商或ハ製藥人等ノ住所氏名買入藥名並ニ和漢洋製ノ區別及其秤量ヲ詳記シ臨時官吏ノ點檢ニ供スヘシ

第廿四條

書式

藥種商營業願

某儀

今般藥種商營業什度候間免許鑑札御下付相成度此段奉願候也

國郡町村番地住(寄留者ナレハ本籍ヲ記スヘシ)

身分

年月日

願人 何 某 印
衛生委員 何 某 印

戸長 何 某 印

縣令宛

第廿五條

改氏名又ハ管内轉籍ノ節ハ速ニ鑑札交換ヲ請願スヘシ
但轉居又ハ休業スル者ハ其旨届出ツヘシ

第廿六條

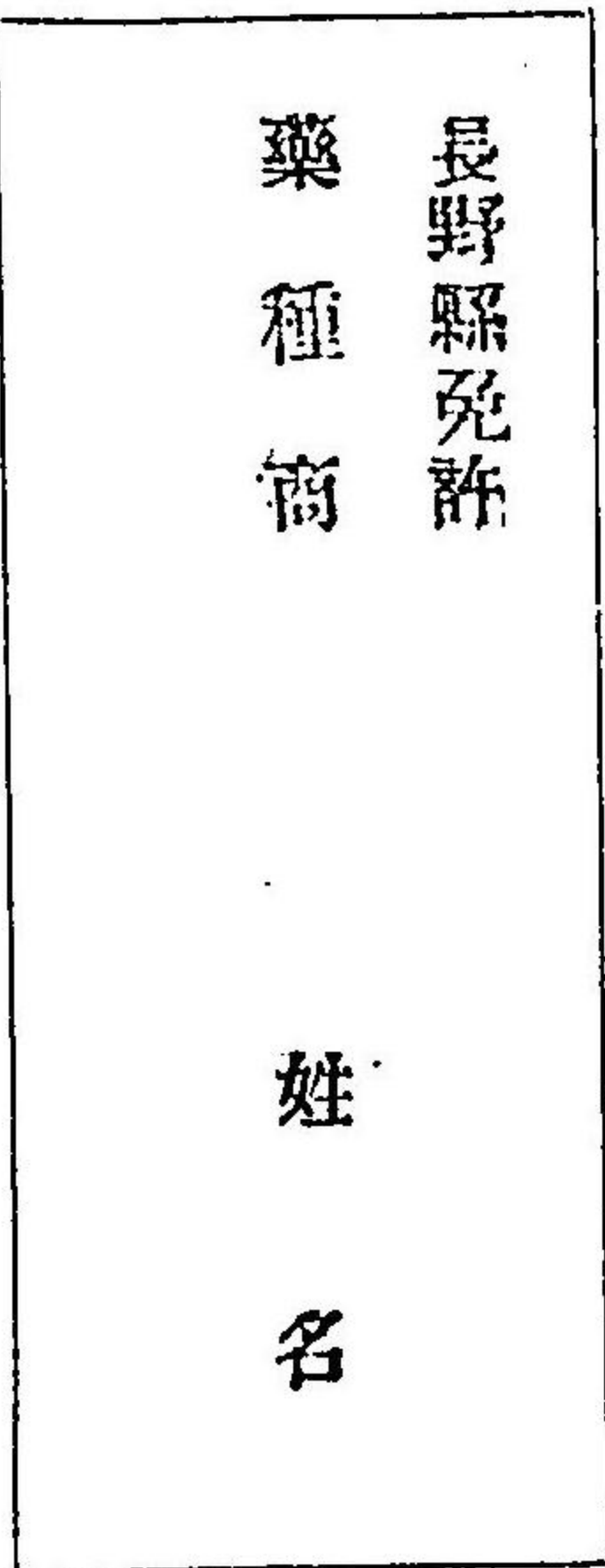
水火盜難等ノ事故ニ據リ鑑札ヲ毀損シ又ハ遺失スルキハ其事面ヲ詳記シ更ニ鑑札ヲ請願スヘシ

第廿七條

廢業又ハ死亡スルキ若クハ他管下へ轉籍寄留スルキハ速ニ鑑札返納スヘシ

第廿八條

藥種商ハ左ノ雛形ニ倣ヒ看板ヲ調製シ店頭ニ掲クヘシ



曲尺 三尺

第三章

罰則

第廿九條

本則第二條第四條第五條第七條及第廿一條第廿二條第廿三條ニ違背シタル者ハ刑法第四百廿六條第四項ニ據リ處分ス

乙第百二十號 明治十六年七月十日

郡 役 所

事

中央衛生會委員ドクトル、ベルツ氏別紙肺肝二病ノ意見書ヲ呈供セシメ付内務省衛生局長ヨリ照會有下候條管下公私立病院及一般開業醫ニ於テ右ニ應當スル病症發見候ハ、其主候ヲ概記シ人名任地職業年齢等ヲ併セテ縣廳へ可届出旨達方可取計此旨相違候

〔別紙〕

ドクトルヘルツ氏意見書

余一千八百七十八年而來日本國ニ於テ肺「ガストマ」(Distoma pulmonale)ト稱スル一種ノ寄生蟲ニ由リテ起ル一新病ヲ發見シ之ヲ寄生蟲咯血(Palasiacole)ト名ケリ抑々此疾病ハ日本ノ外ニ於テハ唯二人ノ台灣人カ病ミタルヲ有リテ其他ハ余カ曾テ施療シタル一人ノ朝鮮人ニ之ヲ見シ有ルノミナレ日本ニ於テハ實ニ不問ニ措ク可カサル一大疾患タリ然レモ余亦嘗テ該病患者ニ就キテ未ダ蟲卵ヲ發見セサル前ハ唯肺勞トシ認定シタルヲ以テ隨ヒテ診斷豫後及ヒ治療モ亦其當ヲ得ス考按ニ苦ミシ多カリ該病ハ今日日本ニ夥シク之アリ余一人ニテモ百人以上ノ患者ヲ認メタル程ナレハ衛生上ニ於テハ最モ注意ヲ加ヘ其國中ニ存スル實況ヲ究メンカ爲官府ニ於テ特ニ該病ノ統計法ヲ擧行セラレシトハ最モ緊要ノ件ト爲スヘシ然レモ該病ニ罹ル者ノ多寡及其死免ルカ否ヲ知ルヲ得テ以テ公衆ヲノ其患ノ狀況ヲ曉ラシメ且ツ其蔓延ノ勢ヲ抑制スルヲ得ルニ至ラシムルヲ亦疑ナカルヘシ此理由ヲ以テ余ハ謹テ衛生局ニ向ヒテ建言シ切コ望ム荷クモ顯微鏡ヲ用ヒテ診斷ヲ施行シ得ルノ醫師アル病院ヨリハ此寄生蟲咯血病ノ數ニ就キテ報告ヲ蒐集セラレシト余カ從來ノ經驗ニ據リテ考フルニ該病ハ日本ノ西南ノ兩地方殊ニ岡山縣熊本縣ノ如キ山多キ地ニ多ク存セル者ナラン余ハ又六年來一種ノ肝臟病ヲ發見シタリ其病候ハ肝臟顆粒變性或ハ肝臟癥毒ト甚ク相

似タレハ病原及ヒ其他諸多ノ關係ニ於テハ全ク二病ト異ナル者ナリ此疾病ハ今マテ學問上ニモ未ダ論シ來ラサル所ニシテ余ハ未ダ曾テ其解剖ヲモ行ハサレハ病變ノ實況如何ニ至リテハ之カ明辨ヲ爲スヲ能ハス唯該病ハ寄生蟲ヨリ起ル者ト想像スルニ止ルニ因リテ余ハ曾テ余カ知ル舊生徒ノ諸縣病院ヘ赴任スルニ當リテハ皆該病ニ注意アラシムヲ依頼シタリ然レニ頃日岡山ニ於テ行ヒタル解剖ニ據レハ同地ニ在リテモ尙ホ寄生蟲該病ノ原因ト爲レリ因リテ考フルニ或ハ全國處々ニ地方病ト爲リテ存セル者ナラシカ故ニ余ハ海濱ニ位セル府縣各地方ノ住民間ニ於テ肝臟肥大、下利、食食及ヒ羸瘦ノ四大症候ヲ具フル疾病ノ地方病ノ狀ヲ爲シテ現存セルカ否ヲ知ランカ爲特ニ其報告ヲ徵集セラレシト切望ス殊ニ他國ニ於テ未ダ曾テ見サル所ノ此疾病ニシテ已ニ現ニ岡山縣下ニ行ハル、ノ實況アレハ衛生局ニ於テ最モ注意ヲ要セラレヘキ事ト信スルナリ

一千八百八十二年十二月十四日
ドクトル、エルウヰン、ヘルツ

乙第百二十一號 明治十六年七月十日

郡 役 所

本年七月以降郡内衛生委員統計表別紙様式ニ照準調製シ毎年(七月一月)十日限り可差
出此旨相達候事

〔別紙〕

每半年

何郡内衛生委員統計表 明治何年 自何月至何月

町數	村數	合計	坪數	人口	委員		給料總額
					有給	無給	

乙第百廿二號 明治十六年七月十二日

郡役所 衛生委員

本年乙第百號達へ左ノ但書追加候條此旨相達候事

追加

但明治十三年本縣乙第九十九號布達衛生統計調查規則中第八條同十二年丁第九十八號同十四年丁第四十三號及本年乙第三十六號達ハ消滅候義ト心得へシ

乙第百廿三號 明治十六年七月十四日

郡役所 戶長役場

衛生委員

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトハ本籍寄留旅行ヲ問ハス詮議ノ上其費用ハ地方稅ヨリ支弁候條其始末ヲ詳記シ郡役所ヲ經由縣廳へ可差出此旨相達候事

乙第百二十四號 明治十六年七月十四日

郡役所 戶長役場

町村戶長署名方自今府縣ニ係ルモノハ(縣郡町村名)縣廳郡役所及管内郡内ニ係ルモノハ(郡町村名)ヲ冠記スヘク此旨相達候事

但聯合町村ハ何町村外何ヶ町村ト記載スヘシ

乙第百二十五號 明治十六年七月十四日

郡役所

遊船稅ハ船稅小科目(解漁船並海川小回船稅)へ編入候義、可心得此旨相達候事

乙第百二十六號 明治十六年七月十九日

郡役所

當管内ノモノ徳嶋縣下ニ於テ賣藥及ヒ烟草出業出賣スルモノハ印紙貼用方檢査可致旨同縣ヨリ通知候條像テ該營業者へ達置へシ此旨相達候事
但他府縣ト雖トモ同標ノ義ニ有之候間本文ノ通心得へシ

乙第二百二十七號 明治十六年七月二十日

郡 役 所
長 戸 役 場

煙草稅檢査トシテ來ル八月初旬ヨリ主任官派遣セシメ候條此旨該營業人へ達置ヘシ此旨相達候事

但營業人遠隔之地へ他出等ノ際ハ代人ヲ置候義ト心得ヘシ

乙第二百二十八號 明治十六年七月二十日

郡 役 所
戸 長 役 場

賣藥營業者之内他管ヨリ轉籍ノ爲メ鑑札書替願出ル節ハ鑑札料ノ半額徵收可致旨及指令置候向モ有之候處詮議之次第有之元後全額徵收候義ト可心得此旨相達候事

乙第二百廿九號 明治十六年七月廿一日

郡 役 所

岩倉右大臣昨二十日午前十時四十五分薨去ニ付同日ヨリ三日間廢朝仰出シル旨相達セラレ候條爲心得此旨相達候事

乙第二百三十號 明治十六年七月廿三日

郡 役 所
戸 長 役 場

行政警察上部民ノ安寧ヲ保全スル爲メ來ル九月一日ヨリ巡査ヲシテ戸口調セシメ候條各町村人民へ告諭スヘシ此旨相達候事

但當分ノ内市街遊廓温泉場等人民輻輳地ノ外施行セサルモノトス

乙第二百三十一號 明治十六年七月廿八日

郡 役 所
戸 長 役 場

本年五月甲第二十九號營業稅雜種稅課目課額布達ニ據リ戸長各營業人ノ課額ヲ查定スル場合ニ於テハ其整理期限ヲ十五日間トシ郡長ハ戸長稟申ノ後十日以内ニ之ヲ處分シ其旨報告スヘキ義ト心得ヘシ此旨相達候事

乙第二百三十二號 明治十六年八月一日

郡 役 所
戸 長 役 場
衛生委員

茨城縣下々總國西葛飾郡古河村葺丁目百四十二番地淺賀宗兵衛同居淺賀金太郎賣藥小兒親玉并淺賀ヤヌ賣藥胎毒さつとり丸營業ノ處鑑札携帶他出ノ儘行衛不相当ニ付廢業

候旨親族ヨリ届出候趣全縣ヨリ通知越候ニ就テハ該藥請賣行商致居候者有之候ハ、販賣停止鑑札返納可爲致此旨相達候事

乙第百三十三號 明治十六年八月一日

郡 役 所
戸 長 役 場
衛 生 委 員

福岡縣下筑前國早良郡西新町柴藤市兵衛同遠賀郡二島村岩崎藤十郎同福岡區東唐人町〔失踪〕牟田口宗平同宗像郡朝町松尾茂雄蠅取藥發賣許可ノ處該配伍藥ノ外毒藥混入候ニ付發賣指止メ候旨同縣ヨリ通牒越候條該藥請賣行商致居候者有之候ハ、販賣停止可致此旨相達候事

乙第百三十四號 明治十六年八月二日

郡 役 所
戸 長 役 場

本年六月甲第三十九號ヲ以テ約束郵便實施ノ義及布達候ニ付テハ別紙書式ニ準シ公用郵便物月報表ヲ製シニケ月分取纏戸長役場ハ其翌月五日限リ郡役所ヲ經由可差出此旨相達候事

〔別紙〕

約束郵便物報告月表

種 別	個 數	大 約 稅 額	書 配 達 留 料
第 一 種			
第 三 種			
第 四 種			
合 計			

何月分約束郵便物數等取調候處本表之通ニ付此段及御届也

年月日

縣 令 宛

官 氏 名

表 解

一第一項種別中一種ハ書狀三種ハ定時刊行物四種ハ書籍帳簿各種ノ印刷物寫眞紙見

本雛形等ノ類渾テ郵便條例ニ據リ區別スヘシ

- 一 第二項箇數中若シ數封ヲ合裝シテ一箇トシ差出スモノハ其封數ヲ記載スヘシ
- 一 第三項稅額ハ他日經費豫算等ノ資料ニ供スルモノナレハ一種ハ二匁毎ニ二錢三種ハ一號一個十六匁毎ニ一錢二號又ハ二個以上一束十六匁毎ニ二錢第四種ハ八匁毎ニ二錢ノ割合ヲ以テ其種類目方等ニ依リ調査シ郵便稅額ノ概數ヲ通算スヘシ
- 一 第四項書留料別配達料ハ區分スルニ及ハス渾テ合計金額ヲ記載スヘシ
- 一 派出吏員等ヨリ差出ス郵便物モ本表ノ内ニ編入スヘシ

乙第百三十五號 明治十六年八月四日

戶長 役場

後見人ノ義ハ地方從來ノ慣習ニ依リ取扱居常ニ監察スヘキ方法モ無之ニ付規則制定迄不動産賣買讓渡質入書入等ニ限リ其證書又ハ願書ニ親族連署ノ上ナラテハ戶長ニ於テ公證ヲ與ヘサル義ト心得ベシ此旨相達候事

乙第百三十七號 明治十六年八月九日

郡 役 所

本年四月乙第五十六號達中左ノ通更正ス

第二條 賣捌看板ハ租稅課ノ通知ニ依リ郡役所於テ從前ノ雛形ニ準シ一種類毎ニ調製下渡スヘシ

第三條 印紙類賣捌ヲ出願スルモノアラバ身元等ヲ取調願書ニ相添送達スヘシ
右相達候事

乙第百四十號 明治十六年八月十三日

郡 役 所

他管ニ於テ營業稅造石稅等不納處分ノ未官損ニ歸シタルモノ管内へ轉籍シテ再度營業願出候節ハ最初官損ノ金額ハ之レヲ徵收シ別途會計課へ送付スヘシ此旨相達候事

乙第百四十二號 明治十六年八月廿一日

郡 役 所
學 務 委 員

明治十四年丙第百十四號達學務委員事務請渡心得第六條ノ次へ左ノ一條追加候條此旨相達候事

第七條

學務委員數名中ノ一名若干名退職ノ節モ亦前條々ニ準シ負擔ノ事務現任者ト請渡ヲ爲スヘシ

但負擔ノ事務ナキキハ現任者連署ノ上届出ツヘシ

乙第百四十三號 明治十六年八月廿二日

戸長役場

地所建物又ハ船舶ヲ他府縣下人民へ賃入若クハ書入ヲナスモノへ公證ヲ與ヘタル節及
其關係ヲ脱シタル節等其都度直ニ可届出尤其ニ公證ヲ與ヘ當今期限中ノ分ハ九月三十
日限可届出此旨相達候事
但爾來公証割印簿ノ更正ヲ要スルコトアルキハ管内ヘノミ一般告示ヲ其他ハ關係ア
ル府縣ヘノミ通知可及義ニ候條届洩無之様厚ク注意可致事

乙第百四十五號 明治十六年八月廿三日

郡役所
戸長役場

今般第二十五號公布ヲ以明治十年第七十九號公布租稅未納処分規則第二條第二項追加
相成候ニ付テハ酒類及器械本人ノ所有ニ非ラサルキハ所有主ニ通告ヲ処分スルハ本
四乙第百四十八號達之通可心得此旨相達候事

乙第百四十六號 明治十六年八月廿五日

戸長役場

本縣人民ニシテ福島縣巡查奉職ノ者休暇或ハ歸省中本人發病辭職願出候キハ醫師診斷
書及本籍戸長ノ添書ヲ要シ候旨同縣ヨリ通知有之候條爲心得此旨相達候事

丙第百三十六號 明治十六年七月十七日

師範學校
醫學校
驪楳院

師範學校醫學校
驪楳院 費出納規程別冊之通相定候條明治十六年度ヨリ施行可致此旨相達候事

〔別冊略ス〕

丙第百三十七號 明治十六年七月十八日

長野 平穩 上田 松本
諏訪 飯田 追分
驪 楳 院

明治十六年度其院經費支出豫算別紙ノ通相定候條此旨相達候事

〔別紙略ス〕

丙第百三十八號 明治十六年七月廿七日

北佐久郡役場

小諸町地内二百二十一番字雉子原

一林反別三町三畝十一歩

右林地立木現在ノ儘官林ニ組替農商務省木曾山林事務所へ引渡候條其旨該町へ達方取
計地券臺帳更正スヘシ此旨相達候事

丙第百三十九號 明治十六年七月廿八日

上伊那郡役所

其郡南箕輪村有賀光彦ヨリ兵備入費ノ内へ献金ノ義出願ニ付其筋へ進達候處右ハ奇特ノ事ニ候得共明治五年第十七號公布ノ趣モ有之願意難聞届旨指令相成候條本人へ達方可取計此旨相達候事

丙第百四十號 明治十六年七月廿八日

上水内郡長野町

兵長 役場

客月烟草稅則ノ義ニ付伺第一項ハ賣買約定未ニシテ預リ中ノモノハ其荷數ヲ初メ荷主ノ住所姓名等詳記シテハ書面爲差出置而シテ約定濟ニ至リ其旨報告セシメ其買受人ニ於テ販賣定價ニ依リ印紙貼用セシムヘシ此旨相達候事

丙第百四十一號

下伊那郡役所

同郡第二番學區第三番學區

學務委員

明治十五年本縣乙第百九十五号達小學區小學校數欄内下伊那郡第二番第三番ヲ合シ更ニ左ノ通改定候條此旨相達候事

〔左記略ス〕

丙第百四十二號 明治十六年八月二日

縣立學校

縣立病院

本年六月甲第卅九號ヲ以テ約束郵便實施ノ義及布達候ニ付テハ別紙書式ニ準シ公用郵便物月報表ヲ製シ二月分取纏メ其翌月五日限リ庶務課驛遞掛へ可差出此旨相達候事

〔別紙零ス〕

丙第百四十三號 明治十六年八月三日

埴科郡役所

其郡屋代町平民清水類ニ詮議ノ次第有之小學校教員免許狀沒收候條早々可返納様達方可取計此旨相達候事

丙第百四十四號 明治十六年八月四日

上水内郡役所

豐岡村地内八千六百廿五番字荒倉

原野反別三百六十町歩ノ内

同番。號字同

本年已第七十九號ヲ以土佐國吾川郡浦戸港へ人民自費ヲ以燈臺建築ニ付該費償却ノ爲メ入港ノ船舶ヨリ帆別錢取立ノ義告テ候處右取立法第二項拾壹反迄トアルハ十反迄ノ誤リニ候旨同縣ヨリ通知有之候條此旨更ニ告示候事

已第九十七號 明治十六年七月卅一日

岡山縣備中國淺口郡玉嶋港へ該地人民自費ヲ以燈臺建築ニ付該費償却ノ爲メ入港ノ船舶ヨリ向九ヶ年間左記之通燈費取立候旨全縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

記

- 一積石五十石以內 帆一反ニ付 金五厘
- 一全 五十石以上百石未滿 全 金一錢
- 一全 百石以上三百石未滿 全 金二錢
- 一全 三百石以上五百石未滿 全 金三錢
- 一全 五百石以上 全 金五錢
- 一西洋形日本船 一噸ニ付 金二錢五厘

已第九十八號 明治十六年七月三十一日

新瀨縣越後國三島郡山田村志戸橋村明ヶ谷村松田村聯合戸長役場ニ備置ノ地所書入質入公証割印簿明治九年ヨリ全十一年十二月迄及全十三年一月ヨリ全十五年十二月迄ノ分錯雜又ハ虫喰等有之更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル八月十五日迄ニ該役場ハ申出

全縣全國刈羽郡久米村戸長役場ニ備置ノ地所質入書入及賣買公証割印簿明治六年ヨリ全十五年十月迄ノ分賦害ノ爲メ不明瞭更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル八月十八日迄ニ該役場ハ申出ヘシ

全縣全國古志郡栖吉村戸長役場ニ備置ノ地所建物船舶質入書入賣買公証割印簿明治十一年三月ヨリ本年五月二日迄ノ分錯雜訂正ニ付右公証ニ關係ノ者來ル八月二十日迄ニ該役場ハ申出ヘシ

全縣全國西顯坂郡能生小泊村戸長役場ニ備置ノ地所建物船舶書入質入賣買讓渡公証割印簿錯雜紛亂更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル八月二十日迄該役場ハ申出ヘシ

岡山縣美作國英田郡柿ヶ原村國貞村戸長役場ニ備置ノ地所建物質入書入賣買讓渡公証割印簿明治九年一月ヨリ本年四月十九日迄ノ分不分明ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル八月十五日迄ニ該役場ハ申出ヘシ

全縣全國久米北條郡下打穴中村上打穴北村戸長役場ニ備置ノ地所建物書入質入公証割印簿明治五年一月ヨリ本年二月十五日迄ノ分出喰鼠喰等ノ爲メ紛亂錯雜更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月三十日迄ニ該役場ハ申出ヘシ

兵庫縣淡路國津名郡大町村戸長役場ニ備置ノ地所建物質入書入賣買讓渡公証割印帳明治九年一月ヨリ本年六月迄ノ分錯雜紛亂更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル八月二十日迄ニ該役場ハ申出ヘシ

同縣但馬國美合郡久斗山村八原村藤村中野村小原村大野村大谷村三谷村地所建物賣買讓渡并質入書入公証簿本年五月十五日以前ノ分錯雜紛敷更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル八月三十日迄ニ該役場へ申出ヘシ

廣嶋縣安藝國佐伯郡小嶋新開戸長役場ニ備置ノ地所建物質入書入公証割印簿本年三月卅一日以前ノ分錯雜更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル八月卅一日迄ニ該役場へ申出ヘシ

京都府丹波國船井郡志和賀村戸長役場ニ備置ノ地所建物質入書入公証割印簿本年六月八日以前ノ分鼠喰ノ爲メ紛亂錯雜更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月十日迄ニ該役場へ申出ヘシ

青森縣陸奥國東津輕郡造道村舊戸長役場ニ備置ノ地所建物質入書入公証割印帳明治八年ヨリ同十三年十二月迄ノ分及地所建物賣買讓渡公証割印帳同十五年十月ヨリ同十二年迄ノ分火災ノ爲メ鳥有ニ屬シ候ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月廿日迄ニ該役場へ申出ヘシ

鳥取縣因幡國氣多郡第五聯合奧崎村養鄉村大坪村藏內村早牛村山根村河原村小畑村戸長役場ニ備置ノ地所建物賣買質入書入公証割印簿本年四月十一日以前ノ分錯雜更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出ヘシ

右期限經過ノ上ハ一切關係ナキモノトシ公証爲取計候旨該府縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

已第九十九號 明治十六年八月四日
 獸醫貸費生八名募集候條志願ノ者ハ昨十五年甲第百拾七號布達ニ照準來ル八月廿五日限り所轄役所ヲ經由出願可致此旨告示候事
 但郡中數名出願苦シカラス

已第百號 明治十六年八月十一日
 德嶋縣阿波國那賀郡大井村役所ニ備置ノ地所建物質入書入公証割印簿明治十二年分盜難ニ罹リ新製ニ付右公証ニ關係ノ者ハ本月卅日迄ニ該役所へ申出ヘシ

廣嶋縣備後國惠蘇郡市村戸長役場ニ備置ノ地所質入書入公証割印簿明治七年四月ヨリ本年三月迄ノ分及建物質入書入公証割印簿全七年一月ヨリ本年二月迄ノ分地所賣買公証割印簿同九年十二月ヨリ本年三月迄ノ分紛亂更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ本月卅一日迄ニ該役場へ申出ヘシ

新潟縣越後國古志郡太田村本明村八十刈村古新田池ノ島村聯合戸長役場ニ備置ノ地所建物船泊賣買質入書入公証割印簿明治九年十二月以前ノ分紛失及同十年一月ヨリ本年五月卅一日迄ノ分欠号或ハ虫喰等有之新製ニ付右公証ニ關係ノ者ハ本月卅一日迄ニ該役場へ申出ヘシ

右期限經過ノ上ハ一切關係ナキモノトシ公証爲取計候旨該縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

已第百一號 明治十六年八月廿二日
本年已第九十九號ヲ以テ告示候獸醫賃費生八名募集之義來ル九月卅日迄延期候條此旨
告示候事

已第百二號 明治十六年八月廿四日

新潟縣越後國古志郡西中野俣村戸長役場ニ備置ノ地所建物賣買質入書入公証割印簿明
治十五年十二月以前ノ分鼠害ノ爲メ番号等不明相成更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル
九月廿日迄ニ該役場へ申出ヘシ

同縣同國南蒲原郡小古瀬村小古瀬新田鍋島村中興野新田千把野新田善久寺新田ニ俣村
聯合戸長役場ニ備置ノ地所質入書入公証割印簿明治八年一月一日ヨリ同十五年三月一
日迄ノ分錯雜脫漏ノ爲メ更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出
ヘシ

大坂府攝津國島下郡大岩村戸長役場ニ備置ノ地所建物賣買讓渡並質入書入公証割印簿
〔舊第八大區一小區三番組大門寺村〕 明治五年九月ヨリ同十年九月迄ノ分紛失ニ付右
〔生保村車作村大岩村ニ係ル分〕 明治五年九月ヨリ同十年九月迄ノ分紛失ニ付右
公証ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出ヘシ

同府同國西成郡加嶋村戸長役場ニ備置ノ地所建物賣買讓渡質入書入公証割印簿明治十
四年十二月以前ノ分紛失ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月三十日迄ニ該役場へ申出ヘ
シ

大分縣豐後國速見郡鶴見村地所建物質入書入賣買讓渡公証割印帳明治六年一月ヨリ同
十五年七月一日迄ノ分及同郡南石垣村北石垣村地所建物船舶質入書入賣買讓渡公証割
印帳明治六年一月ヨリ同十五年五月迄ノ分日田郡竹田村地所建物質入書入賣買讓渡公
証割印帳明治十三年一月ヨリ同十五年十二月迄ノ分錯雜更正ニ付右公証ニ關係ノ者ハ
來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出ヘシ

岡山縣備中國哲多郡矢野村老榮村萩尾村戸長役場ニ備置ノ地所建物質入書入公証割印
簿矢野村ハ明治十四年十二月卅一日以前ノ分老榮村萩尾村ハ本年二月十五日以前ノ分
錯雜紛亂更製ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出ヘシ

靜岡縣遠江國佐野郡原里村戸長役場ニ備置ノ地所建物書入公証割印簿明治十五年一月
ヨリ同十二月廿九日迄ノ分紛失ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月三十日迄ニ該役場へ
申出ヘシ

青森縣陸奥國南津輕郡岩館村舊戸長役場ニ備置ノ地所建物質入書入與書割印帳明治十
二年ヨリ本年三月迄ノ分紛失ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出
ヘシ

千葉縣下總國印旛郡神々廻村谷口村清戸村役場ニ備置ノ地所質入書入公証割印帳明
治七年三月ヨリ同十二年十二月迄ノ分燒失ニ付右公証ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ
該役場へ申出ヘシ

富山縣越中國射水郡二十六町村柳瀬村柳瀬新村戸長役場ニ備置ノ地所並家屋書入公証

割印簿明治十五年六月一日以前ノ分紛失ニ付右公證ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出ヘシ

福井縣越前國丹生郡鳥井村戸長役場ニ備置ノ地所建物賣買讓渡質入書入公証割印簿本年七月以前ノ分紛雜紊亂改製ニ付右公證ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出ヘシ

愛知縣三河國東加茂郡椿立村大瀨建村綾渡村聯合戸長役場ニ備置ノ地所質入書入公證割印簿明治十五年一月ヨリ同七月迄ノ分紛失ニ付右公證ニ關係ノ者ハ來ル九月卅日迄ニ該役場へ申出ヘシ

右期限經過ノ上ハ一切關係ナキモノトシ公証爲取計候旨該府縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

戊第百三號 明治十六年八月廿七日

滋賀縣下坂田郡長濱北門前町元戸長役場備置ノ地所建物質入書入公証割印簿明治十三年十一月ヨリ同十六年四月迄ノ分紛失候旨届出候ニ付右公證ニ關係ノ者ハ本月三十一日限ノ北門前町外廿八ヶ町聯合戸長役場へ申出ヘシ

熊本縣下々益城郡川越村豐富村涌井村甲佐平村戸長役場へ備置ノ地所建物質入書入公証割印帳ノ義明治十四年十二月卅日以前ノ分紛雜紛亂ノ廢有之今般更正ノ義願出候ニ付聞届新帳編製爲致候條右公證ニ關係ノモノハ來ル九月三十日迄ニ該役場へ申出ヘシ

右日限經過ノ上ハ一切關係ナキモノトシ他へ公證爲取計候旨該兩縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

戊第百四號 明治十六年八月廿九日

今般特別之證議ヲ以テ明治十五年度ヨリ同廿二年迄八ヶ年間毎年士族二百五十戸〔百五十戸札幌縣五十戸函館縣五十戸根室縣〕宛保護ヲ加ヘ北海道へ移住被差許候ニ付テハ移住請願之士族ハ本年四月農商務省號外論達並別冊三縣布達之趣旨篤ク相心得充分目途相立候者ニ限リ證議可相成尤限アル戸數ニ付悉ク志望ヲ充テス能ハサル義ハ豫テ可相心得此旨告示候事

〔別冊〕

甲第二十七號

移住士族取扱規則別冊之通施行候條此旨布達候事

明治十六年六月二日

函館縣令時任爲基

〔別冊〕

移住士族取扱規則

第一條

總則

第一項 凡ソ他道ノ士族本縣管内ニ送籍移住シ農業一途ニ從事セント欲スル者ハ此規則ニ照シテ出願スルヲ得

但士族ニシテ農家緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ從事セント欲スル者ハ本文ニ準據スルヲ得

第二項 此規則ハ士族ノ最貧困ニシテ自力移住シ得サル者ノ爲メ特ニ施行スルモノトス

第三項 移住ハ明治十五年度會計年度以降毎年五十戸ヲ限リ八ケ年間之ヲ移スヘシ但本項制限ニ充ル時ハ此規則ニ由ルヲ得ス

第四項 移住者ハ一戸中強健ニシテ職業ニ堪ユル男女二人以上アル者ニ限ルベシ

第五項 此規則ニ頼テ移住セシモノハ當初ヨリ二十五年間他ノ營業ニ移ルヲ許サズ若シ中途癱疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘサルキハ其事實ヲ具シテ願出ベシ

第六項 凡ソ本則中改正又ハ増補ヲ要スルキハ其都度農商務卿ノ裁定ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス

第七項 此規則ニ違背スル者ハ各條ニ照シテ之ヲ處分ス

第二條 移住ノ願叙

第一項 移住者ハ第一號書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣ニ願出ベシ

第二項 本廳ハ其戸數人口及事由ヲ調査シ意見ヲ具シテ農商務卿ノ裁定ヲ經テ許否スベシ

第三項 着船場ヨリ移住地マテ陸路ノ距離六里以上アル者ニ限リ荷物運送費トシテ

第五條第二項ノ區別ニ照シ一戸金十圓以内ノ額ヲ貸與スベシ

第四項 移住ノ季節ハ本縣ニ於テ之ヲ豫定シ其時々願者ニ指示スベシ各自隨意ニ渡航スルヲ許サズ

第五項 移任願移住地配置ノ都合ニ依リ豫算ヲ定メテ之ヲ許可スベシ若シ豫算ニ足ラサルキハ其豫算ニ滿ツルヲ俟テ移住セシムルコトアルベシ

第二條 地所ノ制限

第一項 移住者配置ノケ所ハ本縣ニ於テ豫メ指定スル所ノ區域ニ限ルベシ但配置ノケ所ハ位置及地積等ヲ概記シ時々新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スベシ

第二項 耕宅地ハ一戸凡ソ壹萬坪トシ素地代價及ヒ年季ヲ定メテ之ヲ貸與シ開墾地トナリタル地所ニ限リ滿季後滿三ケ年間ヲ以テ素地代價徵收ノ期限トシ該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トスベシ

第三項 貸地年季ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年トシ其間貸地料ヲ徵セス素地代價ハ千坪金五十錢ヲ超エサルモノトス

第四項 貸地滿季後二十ケ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價徵收期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ同上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第五項 耕宅地ハ豫メ其區畫ヲ定メ抽籤ヲ以テ分賦スヘシ各自隨意ニ撰擇スルヲ許サズ

第六項 當籤ノ地所各自ノ都合ニ依リ相對示談ノ上交換セント欲スルキハ其事由ヲ具シテ認可ヲ請フヘシ

第七項 耕宅地ノ外山林又ハ原野ヲ拂下ケ一村若シハ數村ノ共有ヲラシムルコトアルヘシ

第八項 山林拂下ノ順叙ハ一般ノ成規ニ據ルベキ勿論ナリト雖モ其代價ハ實墾ヲ酌量シ拂下ケノ年ヨリ三十ケ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルコトアルベシ

第九項 既ニ拂下ケタル山林ハ永久保存ノ方法ヲ立シメ其樹木ハ自家建築及薪炭用ノ外濫リニ伐採スルヲ許サス

第十項 樹木伐採ノ手續ハ都テ一船ノ成規ニ遵フベシ

第四條 開墾ノ目的

第一項 凡ソ農業ハソノ耕作ノ種類ニヨツテ大ニ得失ヲ異ニスルモノナレハ本縣ニ於テハ常ニ氣候ノ寒暖耕種ノ方法及ヒ物品ノ消流等ヲ勘査シ時々之ヲ勸奨指示スベシ

第二項 耕地ハ豫メ一戸三町步ト定メ移着ノ年ヨリ三ケ年間ニ必ス之ヲ墾了スベシ而シテ尙ホ餘力アリ更ニ増地ヲ請求スル者ニハ其確否ヲ檢査シ應分ノ地積ヲ貸與スルコトアルベシ三ケ年ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ擧ケサル地所ハ墾機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸渡替ヲナスコトアルベシ

第三項 豫定ノ耕地ヲ墾成スル爲毎戸必ズ課程ヲ定メ新墾坪數ヲ日表ニ登記セシメ

毎週其勤惰ヲ督視スベシ

第四項 課程ハ雨雪其他實際就業シ得サル日數ヲ除キ一戸一日二十坪以上ノ耕地ヲ新墾スルモノトス若シ事故アリ其課程ヲ了ラサルモハ次ノ一週日間ニ於テ必ス之ヲ償ハシムヘシ

第五項 課程ヲ怠ルコト一ケ年間三回ニ及ブ者ハ其輕重ヲ酌量シ輕キハ五日乃至十日重キハ一月乃至三月全家米鹽贈ノ貸與ヲ停止スベシ

第六項 穀菽及藍麻菜種ノ類凡ソ地方ノ物産トナスベキ者ハナルヘシ之ヲ勸奨シ漸次其販路ヲ開カシムヘシ

第七項 毎歲播種ノ耕産ハ豫テ其段別及種類ヲ詳記シテ届出ベシ本縣ハ之ヲ調査シ異見アルモ更ニ其段別ヲ増減シ又ハ種類ヲ改撰セシムヘシ

第八項 日々就業ノ時間及ヒ開墾ノ順叙ハ別ニ定メタル細則ヲ遵守スヘシ

第九項 凡ソ此舉ノ方法ハ本縣ニ於テ擔當官吏ヲ實地ニ派シ其事業ヲ督視シ勤惰ヲ查察セシムヘシ若シ其指揮ニ背ク者ハ本條第五項ニ準據處分スヘシ

第五條 貸與ノ規程

第一項 出貸スベキ金員ハ一戸二百十三圓五十錢ニ超ヘザル額ヲ程度トシ左ノ制限ニ照シテ貸下ベシ

移住者一戸貸與額ノ制限

七年以上	五錢五厘合
六十年未滿	一錢
七十年未滿	三錢
六十年以上	一錢合
鹽贈米	一人一日ノ額
鹽贈料	
三挺	小大 二一
二挺	柴刈 一一
一挺	草刈 一一
二挺	小大 一一
一挺	荒砥 一一
二個	中砥 一一
一個	
一個	
一荷	
種子物料	金一圓五十錢
假屋作料	金七十五圓以內
耕牛馬ノ内毎二戸ニ壹頭ノ割	金二十五圓以內

着港ヨリ移住地迄
陸路荷物運送費

金十圓以內

第二項 出貸スヘキ金品ハ本縣ニ於テ之ヲ管理シ第一項ノ制限ニ據リ左ノ手續ニ照シテ下渡スヘシ

金品下渡ノ手續
米及鹽贈料

以上各戸現在ノ人口ヲ計算シ移着ノ月ヨリ滿二ケ年間毎一ケ月分其前月下旬ニ下渡スヘシ

農具農牛馬及種子物料

以上農業着手ノ緩急ニ應ジ移住初年ニ限り下渡スヘシ

假屋作料

以上假屋ノ仕様建坪及繪圖面等ヲ検査シ積書ノ金員相當ト認ムルルルハ出貸金額ヲ三分ノ其一分ヲ作事着手ノ際ニ貸與シ殘ル二分ヲ假屋落成ノ後下渡スヘシ

陸路荷物運送費

以上着船場ヨリ移住地迄六里以上十里未滿ハ一戸金二圓五十錢十里以上二十里未滿ハ全上金五圓二十里以上三十里未滿ハ全上金七圓五十錢三十里以外ハ全上金十圓ヲ貸下ヘシ

第三項 米及農具ノ類凡ソ現品ヲ以テ貸下ヘキモノハ其時價ヲ積算シテ出貸金額ニ

組入ルベシ

第四項 貸與金ハ其支出ノ遲速ニ係ハラズ都テ各自移着ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年間無利子据置翌八ケ年目ヨリ向二十ケ年賦ニ平均シ毎年十一月三十日限リ返納セシムルモノトス

但シ期日ニ至リ滞納スル者アルキハ該金額ニ年一割二分ニ相當スル利子ヲ課シ滞納日數ニ應シテ徵收スベシ

第五項 凡ソ金品ヲ貸與スルニハ先ツ第二號書式ノ仕出ヲ出サシメ之ヲ檢査シテ其誤謬ナキヲ認メハ更ニ第三號書式ノ證書ヲ徵シテ下渡スベシ

第六項 出生死亡ハ其都度必ス届出シメ貸與金支出ノ證據ニ供スベシ而シテ其出生者ニハ届書受理ノ日ヨリ之ヲ貸與シ死亡者ニハ死去ノ日ヨリ停止スベシ

第七項 貸與金額暫納ノ日迄ハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣貸讓與シ又ハ借入質入ト爲スベシト許サス

第八項 已ヲ得サル事故アリ届濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ歸村スルキハ不在中尙ホ成規ノ米及鹽附料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ其日數六日以外ニ及

フキハ歸着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而シテ其日數ハ控除ニ歸スベシ

第九項 凡ソ規則ニ悖リ業務ヲ惰リ第四條第五項ノ貸與ヲ停止セシ後尙ホ課程ヲ怠ルノ場合ニ於テハ將來一切ノ貸與ヲ停止シ且ツ既ニ貸下タル金額ハ年賦返納ノ約ニ係ラス即時ニ之ヲ完納セシムヘシ

第六條 雜則

但即時完納シ得サルキハ家屋及農具其他一切ノ所有物等ヲ公賣シテ其代價ヲ追徵シ尙ホ不足ヲ生スルキハ連借人ヲシテ辨償セシムヘシ

第一項 移住者便利ノ爲二十戸ヲ以テ一組トシ毎組ニ總代一名ヲ置キ都テ戸長ノ指揮ニ從ヒ組内ノ事務ヲ取扱ハシムベシ

第二項 總代ハ移住者中ヨリ公撰シ戸長ノ認可ヲ得ル者トス

第三項 總代ハ諸般ノ公務ヲ組内ニ傳ヘ又ハ組内ノ勤惰ヲ具シテ戸長ニ報告スルヲ得

第四項 總代ハ官給ヲ與フルノ限ラニアラス

第五項 組合中ハ平常親睦ヲ旨トシ凡ソ天災生死等緩急相救ヒ吉凶相援クルノ情誼ヲ厚フシ決シテ疎隔ナキヲ務ムベシ

第一號書式「戶籍調ハ一般ノ例規ニ倣フベシ」

移住願

今船明治何年第 號御布達移住士族取扱規則ヲ遵守シ御縣下へ移住農業一途或ハ農要關係ノヲ以テ家産相營ミ度候間移住ノ儀御許可被成下度別紙戶籍明細調書相添此何々職工家ニ緊段奉願候也

何府縣下何國何郡何村何番地士族

年號月日

全 全

何ノ誰印

何ノ誰印

何ノ誰印

函館縣令某殿

前書出願ノ趣相違無之候也

兵長 何 誰印

第二號書式 農具及假家屋作料荷物運送費等ノ仕出書式此例ニ準スベシ

明治何年何月分御貸與米金仕出

一 米何程 何ノ誰

金何程 家族何人

内譯

米何程 七年以上六十年未滿 何ノ誰

金何程 但一人ニ付一日米五合 金一錢五厘

米何程 七年以上六十年以上 何ノ誰

金何程 但一人ニ付一日米三合 金一錢

〔以下毎戸此例ニ倣ヒ列記スベシ〕

合 米何程

金何程

右ハ本年何月一日ヨリ何日迄日數何日分米金書面ノ通御貸與被下度因之仕出候也

年號月日

戸長 何ノ誰印

總代 何ノ誰印

第三號書式 農具及假家屋作料荷物運送費等ノ證書式モ此例ニ準スベシ

印紙 貼用

証

一金何程

是ハ明治何年何月分御貸與米金七年以上六十年未滿何人七年未滿六十年以上何人合
何人分

右御貸與相成正ニ拜借仕候ニ付テハ都テ御規則ノ通相心得聊カ無相違返納可仕候萬一
期限相滯候等不都合ノ儀有之候節ハ本人ニ係ラズ連借人ニ於テ悉皆辨納可仕候爲後日
拜借証書如此ニ候也

年號月日
拜借人
何ノ誰印

全
何ノ誰印

函館縣令某殿

甲第二十五號

移住士族取扱規則別冊之通相定候條此旨布達候事

明治十六年六月七日

札幌縣令調所廣丈

(別冊)

移住士族取扱規則

第一條 總則

第一項 凡ソ他道ノ士族本縣管内ニ送籍移住シ農業一途ニ從事セント欲スル者ハ此
規則ニ照シテ出願スルヲ得

但士族ニシテ農業緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ從事セント欲スル者ハ本文ニ準據ス
ルヲ得

第二項 此規則ハ十族ノ最貧困ニシテ自力移住シ得サル者ノ爲メ特ニ施行スルモノ
トス

第三項 移住ハ明治十五年度會計年以降毎年百五十戸ヲ限リ八ケ年間之ヲ移スヘシ
但本項制限ニ充ル時ハ此規則ニ由ルヲ得ス

第四項 移住者ハ一戸中強健ニシテ職業ニ堪ユル男女二人以上アル者ニ限ルベシ

第五項 此規則ニ願テ移住セシモノハ當初ヨリ二十五年間他ノ營業ニ移ルヲ許サズ
若シ中途癡疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘサルキハ其事實ヲ具シテ願出ベシ

第六項 凡ソ本則中改正又ハ増補ヲ要スルキハ其都度農商務卿ノ裁定ヲ經テ之ヲ施
行スルモノトス

第七項 此規則ニ違背スル者ハ各條ニ照シテ之ヲ處分ス

第一條 移住ノ順叙
第一項 移住者ハ第一號書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣ニ
願出ベシ

第二項 本廳ハ其戸數人口及事由ヲ調査シ意見ヲ具シテ農商務卿ノ裁定ヲ經テ許否
スベシ

第三項 着船場ヨリ移住地ニテ陸路ノ距離六里以上アル者ニ限リ荷物運送費トシテ

第五條第二項ノ區別ニ照シ一戸金十圓以内ノ額ヲ貸與スベシ
第四項 移住ノ季節ハ本縣ニ於テ之ヲ豫定シ其時々願者ニ指示スベシ各自隨意ニ渡航スルヲ許サス

第五項 移任願ハ移住地配置ノ都合ニ依リ豫算ヲ定メテ之ヲ許可スベシ若シ豫算ニ足ラサルハ其豫算ニ滿ツルヲ竣テ移住セシムルコトアルベシ

第三條 地所ノ制限

第一項 移住者配置ノケ所ハ本縣ニ於テ豫メ指定スル所ノ區域ニ限ルベシ
但配置ノケ所ハ位置及地積等ヲ概記シ時々新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スベシ

第二項 耕宅地ハ一戸凡ソ壹萬坪トシ素地代價及ヒ年季ヲ定メテ之ヲ貸與シ開墾地トナリタル地所ニ限り滿季後滿三ヶ年間ヲ以テ素地代價徵收ノ期限トシ該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トスベシ

第三項 貸地年季ハ貸與ノ月ヨリ起算シ滿七ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セス素地代價ハ千坪金五十錢ヲ超エサルモノトス

第四項 貸地滿季後二十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價徵收期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ同上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第五項 耕宅地ハ豫メ其區畫ヲ定メ抽籤ヲ以テ分賦スヘシ各自隨意ニ選擇スルヲ許サス

第六項 當籤ノ地所各自ノ都合ニ依リ相對示談ノ上交換セント欲スルトキハ其事由ヲ具シテ認可ヲ請フヘシ

第七項 耕宅地ノ外山林又ハ原野ヲ拂下ケ一村若クハ數村ノ共有ヲラシムルコトアルヘシ

第八項 山林拂下ノ順叙ハ一般ノ成規ニ據ルベキ勿論ナリト雖モ其代價ハ實際ヲ酌量シ拂下ケノ年ヨリ三十ヶ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルコトアルベシ

第九項 既ニ拂下ケタル山林ハ永久保存ノ方法ヲ立シメ其樹木ハ自家建築及薪炭用ノ外濫リニ伐採スルヲ許サス

第十項 樹木伐採ノ手續ハ都テ一般ノ成規ニ遵フベシ

第四條 開墾ノ目的

第一項 凡ソ農業ハソノ耕作ノ種類ニヨツテ大ニ得失ヲ異ニスルモノナレハ本縣ニ於テハ常ニ氣候ノ寒暖耕種ノ方法及ヒ物品ノ消流等ヲ勘査シ時々之ヲ勸奨指示スベシ

第二項 耕地ハ豫メ一戸三町歩ト定メ移着ノ年ヨリ三ヶ年間ニ必ス之ヲ墾了スベシ而シテ尙ホ餘力アリ更ニ増地ヲ請求スル者ニハ其確否ヲ檢査シ應分ノ地積ヲ貸與スルコトアルベシ三ヶ年ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ擧ケサル地所ハ臨機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸渡替ヲナスコトアルベシ

第三項 豫定ノ耕地ヲ墾成スル爲毎戸必ズ課程ヲ定メ新墾坪數ヲ日表ニ登記セシメ

每週其勤惰ヲ督視スベシ

第四項 課程ハ雨雪其他實際就業シ得サル日數ヲ除キ戸一一日二十坪以上ノ耕地ヲ新墾スルモノトス若シ事故アリ其課程ヲ了ラサルハ次ノ一週日間ニ於テ必ス之ヲ償ハシムヘシ

第五項 課程ヲ怠ルコトケ年間三回ニ及ブ者ハ其輕重ヲ酌量シ輕キハ五日乃至十日重キハ一月乃至三月全家米鹽贈ノ貸與ヲ停止スベシ

第六項 穀菽及藍麻菜種ノ類凡ソ地方ノ物産トナスベキ者ハナルヘク之ヲ勸奨シ漸次其販路ヲ開カシムヘシ

第七項 每歲播種ノ耕産ハ豫テ其段別及種類ヲ詳記シテ届出ヘシ本縣ハ之ヲ調査シ異見アルハ更ニ其段別ヲ増減シ又ハ種類ヲ改撰セシムヘシ

第八項 日々就業ノ時間及ヒ開墾ノ順叙ハ別ニ定メタル細則ヲ遵守スヘシ

第九項 凡ソ此舉ノ方法ハ本縣ニ於テ擔當官吏ヲ實地ニ派シ其事業ヲ督視シ勤惰ヲ查察セシムヘシ若シ其指揮ニ背ク者ハ本條第五項ニ準據處分スヘシ

第五條 貸與ノ規程

第一項 出貸スベキ金員ハ一戸二百十二圓五十錢ニ超ヘザル額ヲ程度トシ左ノ制限ニ照シテ貸下ヘシ

移住者一戸貸與額ノ制限

七十年以上	五錢五厘合
六十年未滿	一錢
七十年未滿	三錢
六十年以上	一錢

鹽贈料 鹽贈料 鹽贈料

鋤	三挺	大柴	二
鎌	二挺	小柴	一
山刀	一挺	草刈	一
鋸	二挺	大	一
鐮	一挺	小	一
鐮	一挺	荒	一
鋤	二個	中	一
鋤	一個	荒	一
鋤	一個	中	一
鋤	一荷	荒	一

種子物料	金一圓五十錢
假屋作料	金七十五圓以內
耕牛馬ノ内毎二戸ニ壹頭ノ割	金二十五圓以內

着港ヨリ移住地迄
陸路荷物運送費

金十圓以內

第二項 出貸スヘキ金品ハ本縣ニ於テ之ヲ管理シ第一項ノ制限ニ據リ左ノ手續ニ照

シテ下渡スヘシ

金品下渡ノ手續

米及鹽附料

以上各戸現在ノ人口ヲ計算シ移着ノ月ヨリ滿二ケ年間每一ケ月分其前月下旬ニ

下渡スヘシ

農具農牛馬及種子物料

以上農業若手ノ緩急ニ應ジ移住初年ニ限リ下渡スヘシ

假屋作料

以上假屋ノ仕棟建坪及繪圖面等ヲ檢査シ積書ノ金員相當ト認ムルキハ出貸金額

ヲ三分ノ其一分ヲ作事若手ノ際ニ貸與シ殘ル二分ヲ假屋落成ノ後下渡スヘシ

陸路荷物運送費

以上着陸場ヨリ移住地迄六里以上十里未滿ハ一斤金二圓五十錢十里以上二十里

未滿ハ全上金五圓二十里以上三十里未滿ハ全上金七圓五十錢三十里以外ハ全上

第三項 米及農具ノ類凡ソ現品ヲ以テ貸下ヘキモノハ其時價ヲ積算シテ出貸金額ニ

組入ルベシ

第四項 貸與金ハ其支出ノ迅速ニ係ハラズ都テ各自移着ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年間

無利子据置翌八ケ年目ヨリ向二十ケ年賦ニ平均シ毎年十一月三十日限リ返納セシム

ルモノノス

但若シ期日ニ至リ滞納スル者アルキハ該金額ニ年一割二分ニ相當スル利子ヲ課シ

滞納日數ニ應ジテ徵收スベシ

第五項 凡ソ金品ヲ貸與スルニハ先ツ第二號書式ノ仕出ヲ出サシメ之ヲ檢査シテ其

誤謬ナキヲ認メハ更ニ第三號書式ノ證書ヲ徵シテ下渡スベシ

第六項 出生死亡ハ其都度必ス届出シメ貸與金支出ノ證據ニ供スベシ而シテ其出生

者ニハ届書受理ノ日ヨリ之ヲ貸與シ死亡者ニハ死去ノ日ヨリ停止スベシ

第七項 貸與金額皆納ノ日迄ハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣貸讓與シ又ハ書

入質入ト爲スヲ許サス

第八項 已ヲ得サル事故アリ届濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以內ニ歸村

スルキハ不在中尙ホ成規ノ米及鹽附料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ其日數六日以外ニ及

ブキハ歸着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而シテ其日數ハ控除ニ歸スベシ

第九項 凡ソ規則ニ悖リ業務ヲ惰リ第四條第五項ノ貸與ヲ停止セシ後尙ホ課程ヲ怠

ルノ場合ニ於テハ將來一切ノ貸與ヲ停止シ且ツ既ニ貸下タル金額ハ年賦返納ノ約ニ

係ラス即時ニ之ヲ完納セシムヘシ

但即時完納得サルキハ家屋及農具其他一切ノ所有物等ヲ公賣シテ其代價ヲ追徴
シ尙ホ不足ヲ生スルキハ連借人ヲシテ辨償セヨムヘシ

第六條 雜則

第一項 移住者便利ノ爲二十戸ヲ以テ一組トシ毎組ニ總代一名ヲ置キ都テ戸長ノ指
揮ニ從ヒ組内ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二項 總代ハ移住者中ヨリ公撰シ戸長ノ認可ヲ得ル者トス

第三項 總代ハ諸般ノ公務ヲ組内ニ傳ヘ又ハ組内ノ勤惰ヲ具シテ戸長ニ報告スルヲ
得

第四項 總代ハ官給ヲ與フルノ限リユアラズ

第五項 組合中ハ平常親睦ヲ旨トシ凡ソ天災生死等緩急相救ヒ吉凶相援クルノ情誼
ヲ厚フシ決シテ疎隔ナキヲ務ムヘシ

第一號書式 「戸籍調ハ一般ノ例規ニ倣フヘシ」

移住 願

今船明治何年第 號御布達移住士族取扱規則ヲ遵守シ御縣下へ移住農業一途（或ハ農
要關係ノ）ヲ以テ家産相營ニ度候間移住ノ儀御許可被成下度別紙戸籍明細調書相添此
段奉願候也

何府縣下何國何郡何村何番地士族

年號月日

全	全
何	何
某	某
印	印
何	何
某	某
印	印

函館縣令某殿

前書出願ノ趣相違無之候也

戸長 何 誰 印

第二號書式（農具及假家屋作料荷物運送費等
ノ仕出書式ニ此例ニ準スヘシ）

明治何年何月分御貸與米金仕出

一 米何程 何 ノ 誰
金何程 家族何人

內譯

米何程 七年以上六十年未滿 何 人
金何程 但一人ニ付一日 米五合
金一錢五厘

米何程
金何程

七年未滿六十年以上

何 人
但一人ニ付一日米三合
金一錢

〔以下毎戸此例ニ倣ヒ列記スベシ〕

合 米何程
金何程

右ハ本年何月一日ヨリ何日迄日數何日分米金書面ノ通御貸與被下度因之仕出候也

年號月日

戸長

何

誰 印

總代

何

誰 印

第三號書式

〔農具及假屋作料荷物運送費等
ノ證書式モ此例ニ準スベシ〕

印 紙
貼 用

証

一金何程

是ハ明治何年何月分御貸與米金七年以上六十年未滿何人七年来未滿六十年以上何人合
何人分

右御貸與相成正ニ拜借仕候ニ付テハ都テ御規則ノ通相心得聊カ無相違返納可仕候萬一
期限相滞候等不都合ノ儀有之候節ハ本人ニ係ラズ連借人ニ於テ悉皆辨納可仕候爲後日
拜借証書如此ニ候也

年號月日

拜借人

何

誰 印

全

何

誰 印

札幌縣令某殿

甲第三十四號

士族移住民取扱規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

明治十六年六月廿九日

根室縣令湯地定基

別冊

士族移住取扱規則

第一條

凡ソ他道ノ士族貧困ニシテ自力移住
本縣管内へ送籍移住シテ農業及漁業ニ
從事セント欲スル者ニ限リ明治十五年度ヨリ一ヶ年五十戸ツ、向フ八ヶ年間移住ヲ

許可スヘキ爲メ此規則ヲ施行スヘキモノトス故ニ志願者一戸内ニ健強職業ニ耐フヘ目途ノ當否ヲ審査シ着實ナルモノハ農商務卿へ稟議ノ上許可スヘシ
但七族ニシテ農家漁家緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ從事セント欲スルモノハ本文ニ準據スルヲ得

第二條 農業ヲ以テ移住ヲ許スヘキ國ヲ釧路根室北見ノ三ヶ國トシ其着手ノ順序ヲ二次ト定メ釧路根室ヲ第一着ニ北見ヲ第二着トナシ順次移住セシムヘシ漁業ヲ以テ移住ヲ許スヘキ國ヲ千島國トス

第三條 移住セシムル期節ヲ毎年五月ヨリ十一月ノ間トス

第四條 前條四ヶ國ノ中地所ヲ選メテ左ノ十二ヶ所トシ一ヶ所へ同時移住ノ戸數ヲ五十戸トナス

但五十戸以下十戸或ハ二十戸ツ、移ラントスルキハ其數五十戸ニ充ツルヲ待テ之ヲ移スヘシ

根室國

根室郡温根沼

同 郡厚別村

釧路國

厚岸郡濱中山ノコベリベツ

百戸

百戸

百戸

同 郡興龍村

釧路郡ヨリ白糠郡ニ至ル平原

釧路郡釧路川沿岸

川上郡塘路村

北見國

紋別郡湧別村

網走郡網走村

常呂郡常呂村

千嶋國

國後郡泊村

擇捉郡擇捉村

第五條 移住者ハ別紙書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣へ願出ヘシ

第六條 此規則ニ頼テ移住セシ者ハ當初ヨリ廿五ヶ年間他ノ營業ニ移ルヲ許サス若シ中途廢疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘザルキハ共事實ヲ具シテ願出ヘシ

第七條 移住地百物運搬ノ便利ヲ計リ一戸毎ニ區畫ヲ正フシ貸與地ヲ割渡スヘシ

第八條 農業ヲ目的トナシ移住スル者ハ一戸ニ付宅地千坪開墾地一萬五千坪以內ノ地所ヲ貸渡シ貸地年季ハ貸渡ノ月ヨリ滿七ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セス素地代價千

二百戸

三百戸

百戸

五十戸

百戸

二百戸

五十戸

五十戸

百戸

坪金五十錢ヲ超ヘザル割ヲ以テ開墾地トナリタル地所ニ限リ滿季後滿三ケ年間ヲ素地代價徵收ノ期限トス該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナス

第九條 貸渡地ノ内耕地九千坪ハ移着ノ年ヨリ三ケ年間ニ必ス墾成スヘシ若シ三ケ年間ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ擧ケサルハ其未墾ノ地所ヲ臨機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸渡替ヲナスコアルヘシ

第十條 第八條ノ貸地滿季後二十ケ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價徵收期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第十一條 耕宅地ノ外山林原野ヲ一村若クハ數村ノ共有地ニ拂下クルコアルヘシ
第十二條 山林拂下ノ順序ハ成規ニ據ルヘシ但其代價ハ實際ヲ酌量シ拂下ノ年ヨリ三十ケ年以内ノ年賦上納ヲ許可スルコアルヘシ

第十三條 既ニ拂下タル山林原野ハ永久保存ノ方法ヲ立テシメ其樹木ハ自家建築及薪炭用ノ外濫リニ伐採スルヲ許サス

第十四條 貸出スヘキ金額ハ一戸金三百六十三圓ニ超ヘサルノ額ヲ程度トス而シテ其農業者ニハ本條及ヒ第十九條第二十條第二十一條ニ依リ漁業者ニハ第十六條第二十八條第十九條第二十條第二十一條ニ依リ貸出ヲナスヘキモノトス

一新墾アラテ

壹箇

但三頭牽

一麻製牽馬具

四頭分

一耕馬

五頭

一ハロー

一箇

右ハ移住初年度ニ限リ十戸ヲ一組トナシ貸與ノ分

一鍬

三挺大一

一鐮鋸山刀

各一挺

一鎌

二挺柴刈
一挺草刈

右ハ移住初年度ニ限リ毎戸貸與ノ分

以上諸器具ノ修補等ハ自辨タルヘシ

第十五條 移住シテ特別ナル官ノ保護ヲ受クル期限内ハ左ノ種類ヲ播種セシメ管廳ニ於テ其收穫物販賣ノ途ヲナシ與フヘシ

大小麥

麻

蕎麥

大小豆

粟

第十六條 漁業ヲ目途トシ移住スルモノハ千嶋國地方ニ於テ新開ノ漁場ヲ選ヒ一戸ニ付一ヶ所或ハ二ヶ所ヲ貸渡シ貸渡年季ハ貸渡ノ月ヨリ滿五ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セヌ素地代價ハ千坪金七十五錢ヲ超ヘサルノ割ヲ以テ開地トナリタル地所ニ限り滿季後滿三ヶ年間ヲ素地代價徵収ノ期限トス該期限内上納ノモノニハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ

第十七條 第十六條貸地滿季後十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵收スヘシ但素地代價徵收期年內ニ在テ素地代價未納ノ分ハ同上地租同一額ノ貸地料ヲ徵收スヘシ

第十八條 漁業目途ニテ移住ノモノニハ十五戸ヲ一組トナシ金額千八百六十六圓以內ヲ以テ移住初年ニ限り左ノ漁船并ニ漁具ヲ貸與スヘシ

- 一 圖合船 二艘
 - 一 チロロ船 一艘
 - 一 持府船 二艘
 - 一 建網 一統
 - 一 引網 一統
 - 一 錨 十一挺
 - 一 漁舍 一棟
- 以上諸器具修補等ハ自辨スヘシ

第十九條 家屋ハ農漁ノ別ナク一戸十五坪ノ草小家一棟新築費トシテ金九十圓以內ノ額ヲ二期着手ノ際ニ貸與スヘシ但官ニ於テ新築ノ上貸與セラレシマテ請フ者アルニハ其請願ヲ許スヘシ

第二十條 倉料ハ人員ニ應ジ農業者ハ着籍ヨリ二ヶ年漁業者ハ一年六ヶ月間左ノ割合ヲ以テ玄米及鹽附料貸與スヘシ

玄米 七年以上六十年未滿一日一人玄米五合七年以上一日一人米三合ノ割ヲ以テ貸與スヘシ

鹽附料 七年以上六十年未滿一ヶ月一人金四十五錢七年以上六十年以上一ヶ月一人金三十錢ノ割ヲ以テ貸與スヘシ

第二十一條 着港ヨリ移住地マテ陸路ノ距離六里以上アル者ニ限り荷物運送費トシテ若干金額ヲ貸與スルコトアルベシ

第二十二條 第十四條ヨリ第二十一條ニ於テ貸與シタル物品ノ金額ハ無利子七ヶ年据置キ第八ヶ年目ヨリ向フ二十ヶ年賦ヲ以テ毎年十一月三十日限り返納スヘシ但貸與シタル物品代價ハ其年度末決算ノ上各自ニ報告スヘシ

第二十三條 移住人保護獎勵監督ノ爲就業課程ヲ定メ其係ヲシテ毎ニ勤惰ヲ糺スヘシ

若シ懶惰ニシテ其課程ヲ勉メサルモノアルキハ隱機貸與ヲ停止スヘシ然ル上尙ホ課程ヲ忘ルモノハ既ニ貸下ケタル金額ハ年賦返納ノ規則ニ係ハラヌ即時ニ之ヲ完納セシムヘシ即時完納シ得サルキハ家屋及農具其他一切ノ所有物ヲ公賣シテ其代價ヲ追徴スヘシ尙ホ不足ヲ生スルキハ連借人ヲシテ辨償セシムヘシ

第廿四條 已チ得サル事故アリ屆濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ歸村スルキハ不在中尙ホ成規ノ米及糠噲料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ日數六日以外ニ及フキハ歸着屆書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而シテ其日數ハ扣除ニ歸スヘシ

第廿五條 移任人出生死亡ハ其都度必ス届出ヘシ其出生者コハ屆書受理ノ日ヨリ成規ノ貸與ヲナシ死亡者ニハ死亡ノ日ヨリ停止ス

第廿六條 貸與金額皆納ノ日マテハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣買讓與シ又ハ書入質入ト爲スコトヲ許サス

書式 用紙美濃紙
五通

移住願

私共儀

明治十六年御縣甲第 號御布達士族移住取扱規則ニヨリ 農業・漁業ニ目途ヲ以テ某年某月ヨリ御管下某國〔郡村〕へ移住仕度ニ付御詮議ノ上御許可被成下度然ル上ハ御成規ハ勿論時々ノ御命令ヲ遵守シ密テ成業可仕候戸籍書寫相添運署ヲ以テ此段奉願上候也

某府縣町番地
士族
姓 名 印
年 齡

明治年月日

以下同前連名
右總代人 二名 (移住願人ノ中ニテ)

根室縣令某殿

戊第百五號 明治十六年八月廿九日
今般陸軍士官學校幼年生徒五十二名召募候旨被達候條入學志願ノ者ハ來ル九月十五日迄ニ願書三通差出スヘシ依テ士官學校幼年生徒檢査格例並志願者心得相添此旨告示候事

明治十六年陸軍士官學校幼年生徒檢査格例

第一條 檢査ヲ分テ五則トス
第一則 年 齡
第二則 体 格
第三則 讀書作文

第四則 算術

第五則 佛或ハ英學

右五則中英佛學ハ從來修學スル者ニ限リ之ヲ試ム

第二條 第一則ハ滿十四年以上滿十七年以下タルヘシ

但年齡ヲ算スルニハ本年九月ヲ以テ期トス

第三條 第二則ノ檢査ハ身體強壯身長年齡相應ニシテ丁年迄ニ定規ノ寸尺ニ發育スヘキ見込アル者

第四條 第三則ノ檢査ハ其科目ヲ分テ二トス

其一 讀書 漢文有點ノ書(外史政記文章軌範等)

其二 作文 眞片假名文二題(往復書)

但漢文ノ檢査ヲ請フ者ハ之ヲ許ス

第五條 第四則ノ檢査ハ左ノ科目トス(甲)整數分數(乙)比例右二項ノ外別ニ代數幾

何等ノ檢査ヲ請フ者ハ之ヲ許ス

第六條 第五則ノ檢査ハ左ノ科目ヲ以テ之ヲ試ム(甲)會話(乙)聞書(丙)翻譯(佛或

ハ英文ヲ日本文ニ記ス

右三項中會話ノミヲ解シテ作文ヲ能セサル者若クハ作文ヲ能シテ會話ヲ解セサル者

ハ共ニ其能スル所ノ者ノミヲ檢査ス

第七條 右檢査場ニ會スルニ字書ハ勿論一切ノ書籍或ハ叢案等ヲ攜帶スルヲ許サス

但始メ稿ヲ起シ後之ヲ淨書スルヲ許ス

第八條 檢査ノ順序ハ幾百人ニ限ラヌ志願ノ者ハ總テ第一則第二則合格ノ上第三第

四ノ二則ニ及フ而シテ第五則即英佛學並ニ圖畫學ノ檢査ヲ請フ者ハ又其檢査ヲナス

而シテ第三第四及ヒ第五則中其檢査ヲ受得ル各科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ総人員ノ比

較表ヲ作り此中ニ就キ合格ノ者ヨリ順次定員丈ヲ採用ス

但戰死セル陸軍將校并ニ相當官ノ孤子ハ合格スル以上ハ順次ニ拘ラス之ヲ採用

明治十六年陸軍士官學校幼年生徒入學志願者心得

第一條 本校幼年生徒ハ華士族平民中陸軍出身志願ノ者ニ限リ檢査ノ上採用ス

第二條 幼年生徒ハ入校ノ日ヨリ誓テ陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲ爲サシ

ム故ニ入校ノ後ハ自己ノ請願ヲ以テ退校又ハ歸省スルヲ許サス然レハ病患ニテ卒業

ノ目途ナキ者又ハ修學中學術不勉強品行不正等ノ者ハ檢査ノ上退校セシムヘシ

但官費生徒ニシテ學術不勉強又ハ品行不正等ヨリ退校セシムル者ハ在校中ノ費用

ヲ辨償セシム

第三條 幼年生徒ハ入校當日ヨリ官費生徒即チ戰死セル陸軍將并相當官ノ孤子アル

モ一名ニ限リ衣服及ヒ一切ノ費用ヲ官給トス

但自費生徒ト雖モ諸品ノ調度ハ一般制規アルヲ以テ官費生徒ト同ク支給シ其代

價ヲ上納セシム 一ヶ月金八圓ツツ上納シ年

度末ニ至リ過不足ヲ積算ス

第四條 自費入學ノ者モ固ヨリ陸軍出身志願ノ者タルヲ以テ身分ノ取扱總テ規則ニ

據リ處分ルコト官費生徒ニ異ナルコトナシ

第五條 自費入學ノ者ハ寢具器具書籍等貸渡スト雖モ破損修理并ニ食料被服學用消

耗品等一切自辦タルヘシ

第六條 修學期限ハ三ケ年ヲス而シテ此期限内全科卒業ニ至ラサル者ハ尙若干ノ年

月ヲ延期シ又ハ他ノ事故ニ依テ士官生徒ニ轉入シ得サル者ハ事宜ニヨリ一科ノ專業

生ヲ命ジ更ニ五年間陸軍ニ從事セシムルコトアルヘシ

第七條 幼年生徒志願者ノ檢査ハ士官學校ニ於テ之ヲナス故ニ各地ニアル志願者ハ

出京ノ上士官學校へ出願スヘシ

但官費自費生共出京旅費ハ勿論滞在日當及ヒ檢査不合格ニシテ歸縣セシムル者ノ

旅費等總テ之ヲ給スルコトナシ

第八條 入校志願ノ者ハ第一號書式ニ照準シ願書履歷書共正副二通宛士官學校へ差

出スヘシ

第九條 總テ入學ヲ命スル者ハ父兄親族等總テ一家ヲナス身元慥ナル者二名(在東

京ノ者ニ限ル)ヲ以テ身元引請人トナシ官費ハ第二號自費ハ第三號書式ノ證書ヲ差

出スヘシ

第十條 身元引受人ハ第二及ヒ第三號入學證書式中ニ示ス如ク生徒身上ノ儀ハ何事

ニ依ラズ引受ヘキモノナルヲ以テ假令ハ生徒修學中諸器ヲ破損紛失シ自償ノ際本入

資力ニ不及時ノ如キハ必身元引受人ヨリ上納セシムヘシ

但引受人事故アリテ其引受ヲ辭スルキハ必ス代人ヲ撰ミ府縣廳ノ奧書ヲ以テ届出

スヘシ

第一號書式 用紙美濃紙

士官學校幼年生徒入學願

某 儀

此度御校幼年生徒入學(自費入學)奉願候間御檢査ノ上御採用被下度此段奉願候也

府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓 名 印

身元引請人

府(縣)何族(平民)

府何郡(區)何町何番地住(寄留)

姓 名 印

年號月日

陸軍士官學校長官姓名殿

履歷書式 全上 第一號願書ニ副ヘ差出スヘシ

履歷書

何年種痘(天然痘) 月日

府(縣)何族(平民)職業 戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍) 姓 名 印

年號月日生 年號月何年何ヶ月

將校並相當官ノ狐子ハ 父何官姓名何年何月何日戰死

一漢學 何年何月何日ヨリ何學校(何塾)ニ於テ修業

書目 何々

一正則佛(英)學全前 一變則

歷史書目何々

究理(地理)書目何々

語學

一和算術 全前

科目 何々

一圖書學 全前

科目 何々

佛英學圖書學及ヒ別ニ高等ノ檢査ヲ請ハントスル者ハ履歷書ノ末ニ其旨ヲ加書ス

右之通相違無之候也

本人 姓 名 印

右身引受人 姓 名 印

年號月日

第二號證書々式 用紙証券界紙

士官學校幼年生徒入學證書

某 職

當度御校幼年生徒入學御許可相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可任 萬一學術不勉強又ハ品行不正等ヨリ退校命セラレ候節ハ在校中ノ費用一切辨償可仕 若シ本人上納難致候節ハ引請人ヨリ相納可申且本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元引 請人ニ於テ引請可申依テ引請人連署證書如斯候也

府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

何國何郡(區)何町(村)何產 何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓 名 印

年號月日生 年號月何年何ヶ月

身元引請人

府(縣)何族(平民)

府何郡(區)何町何番地住(寄留)

姓名印

全

年号月日

全

陸軍士官學校長官姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

府(縣)郡(區)長

姓名印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事(令)

姓名印

第三號證書々式 全上

士官學校幼年生徒入學証書

某儀

此度御校幼年生徒自費入學御許可相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且入學中ノ費用ハ御規則之通上納可致若シ本人難納候節ハ引請人ヨリ相納可申候其他本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラズ身元引請人ニ於テ引請可申候依テ引請人連署證

書如斯候也

府(縣)何族(平民)職業

戶主名何男(兄)〔弟〕〔伯〕〔叔〕〔甥〕〔附籍〕

何國何郡(區)何町(村)產

姓名印

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

年號月日生
年號月何年何ヶ月

身元引請人

府(縣)何族(平民)

府何郡(區)何町何番地住(寄留)

姓名印

全

年號月日

全

陸軍士官學校長官姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

府(縣)郡(區)長

姓名印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事(令)

姓名印

戊第百六號 明治十六年八月廿九日
 廣島縣安藝國高田郡上根村戸長役場備置ノ地所書入公證翻印簿明治九年一月ヨリ全十
 二月迄ノ分並ニ明治十三年一月ヨリ全十二月迄ノ分紛失史ニ編製候ニ付右公証ニ關係
 ノ者ハ來ル九月二十日限リ該役場へ申出ヘシ
 宮城縣磐城國亙裡郡高屋村鷺屋村藤村聯合戸長役場備置ノ地所建物賣買實入書入公証
 翻印簿明治十四年一月ヨリ全十二月迄ノ分紛失ニ付右公証ニ關スルモノ本年九月三十
 日限リ該役場へ申出ヘシ
 右日限經過ノ上ハ一切關係ヲキモノトシ他へ公証爲取計候旨該縣ヨリ通知有之候條此
 旨告示候事

明治十六年十月十六日御届
 同 年十一月四日出版

定 價 金 二 十 錢

編輯人 長野縣士族 城 殿 實

長野縣平民 長野町八百四十八番地留

出版人 西澤喜太郎

長野町八百六十四番地

印刷 長野西町新道 西澤活版所

東 京 圖 書 館

新書門

十四
二九

部 類 函 架 號 冊